帽子の中で

〈登場人物〉

男（帽子が脱げない男・外来患者）
医師（ＥＴＣ科・精神科医）
警察官
看護婦
月子（入院患者）
雪子（入院患者）
花子（入院患者）
ミスターＸ（バッ）（診療放射線技師）
床屋（病棟の出張床屋）
女（特別室の患者）

1

「ゴゴ、ゴゴーッ、ゴボゴボ」とトイレの水を流した音。
舞台中央に洋式便器。蓋はしまっている。蓋の上に十五、六歳と思われる少女（月子）が座っている。パジャマ姿。厚手のスリッパ。頭をスカーフで覆っている。

月子　パンドラの箱は、ほんとは箱でなくて壺です。パンドラの壺……（便器から下りて）きっとこんな形。これ、子宮の形なんだって。見たことないけど（下腹部に手をあてる）……ギリシャ神話の地上で最初の女性、パンドラさんが蓋を開けると、閉じ込めておいたありとあらゆる災いが飛び出しました。あわてて閉めたのですが、時

すでに遅し。災いは世界中に広がってしまいましたとさ……（蓋に向かって囁く）誰かいる？　誰か、残っているの？

月子、蓋をたたく。モールス信号。「トンツーツー、トントントントン、ツーツーツー」

月子　トンツーツーはW、トントントントンはH、ツーツーツーはO。WHO。フー……誰。誰？

蓋の中から返信。「トントントントン、ツーツーツー、トンツーツートン、トン」

月子　トントントントンはH、ツーツーツーはO、トンツーツートンはP、トンはE。HOPE。ホープ……ホープ……希望。

月子、蓋を開け、中から〝飛行帽〟を取り出して被る。プロペラ音。

月子、両腕を水平に。

男が二人（帽子が脱げない男と出張床屋）、月子の両側から現れ、月子と手をつなぐ。二人は首から紐で床屋が使うハサミをさげている。

月子と同じく、腕を翼のように水平に保つ。それは双発機の形。

プロペラ音、徐々に大きく。三人、ゆっくりと〝離陸〟。

溶暗。

2

針の跳ぶ音がまじる古いレコード。聞こえてくるのは女性シャンソン歌手による『すみれの花咲く頃』。歌に重なって鉄製の手すりを叩き、

擦るような音。
「ガンガンガン、ギーギーギー、ガンガンガン」
まるで遭難信号（ＳＯＳ）のようだ。
繰り返す。歌止み、音のみ大きく。
音も止み、明りが入る。
診察室。五十代の医師は椅子に。二十代の看護婦は立っている。
患者の男も椅子に。男は白いバスローブを着て、黒のシルクハットをかぶっている。背中を丸め、その目はうつろ。どこか遠くを眺めているようで明らかに正気ではない。年齢は三十代か。
男の傍らに付き添いらしき制服の警察官（二十代）が立っている。
医師は机に向かってカルテに何か書いている。

医師　（警察官に背を向けたまま）世の中に病気がいくつあるか、ご存じですか？
警察官　は？
医師　病気の数です。病気の種類。
警察官　病気の数ですか……たくさんあるんでしょうね。
医師　たくさんあります。
警察官　（考えている）……。
医師　大体でいいですよ。
警察官　大体といっても。
医師　見当つきませんか。
警察官　そうだ、風邪は万病のもとというじゃないですか。だから万。一万種類……そりゃないか。万は数の多いことのたとえだもんなあ。万に一つとか、万策つきた、万人に共通……。
医師　（振り返って）正解。
警察官　正解なんですか！
医師　ＷＨＯ、世界保健機関によると、一九三四年に病気の種類は三千五百だったのが、一九五四年には七千、それが現在では

約一万といわれています。

警察官　一九三四年……八十年で三倍か。猛烈な勢いで増えてますね。

医師　猛烈です。

警察官　なぜですか？

医師　増えた理由？

警察官　ええ。

医師　見つかるようになったからです。それまでも存在していたが、正体がわからないものが多かった。正体のわからないものは病気として名づけることができません。それが医学の急速な進歩によって、原因や治療法が見つかるようになった。これが大きい。

警察官　名づけられる……。

医師　認められるといってもいいでしょう。筋ジストロフィー症、ご存じですね。筋線維が破壊、変性していく難病です。一八六八年、フランス人の医師、デュシェンヌが発表しましたが、ではそれまで筋ジストロフィーは存在しなかったのか、そんなはずはない。だが、病気としては認知されていなかった。

警察官　認知、ですか……。

医師　つまり筋ジスの患者は病人ではなかった。西洋ではきっと、魔女の呪いで歩けなくなったとでもいわれていたのでしょう。

警察官　まだ見つからない病気が。

医師　あるでしょうね、たくさん。天文学の新星発見と同じで、病気の発見も注目されます。発見者の名前が付けられることもある。だから、医者ははりきって見つけようとする。ややこしいものは症候群などと称してくくってしまう手もあるし（笑）。

警察官　しょうこうぐん？

医師　聞いたことないですか。一群の多彩な症候で形成されるまとまった病態……かくして治せる治せないに関わらず、次々名前をつけていった。それで今や一万種類以上。病気も増え、病人も増えた。

警察官　なるほど。

医師　一千万人、いや一億人に一人なんて非常に珍しい病気も見つかっています。主に遺伝子の欠損やミスプリントに由来するものですが、地球の人口が爆発的に増えていますから、そういった極稀な病気が見つかる確率も高くなるわけです。

警察官　自分の同僚の子供が五十万人に一人という病にかかっています。五十万分の一なんてジャンボ宝くじの一等の確率です。そんな幸運にはまるっきり縁のない男なのに……。

医師　病気は不条理です。不条理そのものです……一方、医者の中には病気をでっちあげる輩もいる。特に精神病とかアレルギー関係に多いんですが、ほとんど医者の創作のような病気もある……あなた、カモノハシアレルギーを知っていますか？

警察官　カモノハシ？　カモノハシって、オーストラリアにいる嘴がこんな……。

医師　カモノハシは哺乳類ですが卵を産み、孵化した子供を母乳で育てます。このカモノハシにふれると発熱し、ひどい下痢が続くのがカモノハシアレルギー。ただ、これを発表したのは皮膚科の開業医で、動物園の飼育員がかかったというのですが、どう思われます？

警察官　どうと言われても。

医師　他に事例もなし。僕は風邪でもひいて熱が出て、下痢になって来院した患者がたまたまカモノハシの飼育員だったんじゃないかと……まあ、そんなのもありますから、一万といっても多少割り引いて。

警察官　先生、病気の種類が一万以上あるのはわかりましたが。

医師　まわりくどい？

警察官　そういう意味では……。

医師　僕はただ、あなたが署に帰って上司に正しく報告できるようなるべく丁寧に説明してるつもりですが。

警察官　それは……。

医師　この（患者の男をさし）……この、このちょっと変わっている方を……この場合、何て呼べばいいんですか？　犯人ですか？　容疑者？　被告？　重要参考人？

警察官　それが微妙でして。

医師　一体何をやらかしたんです？

警察官　裸で町を歩いていたんです。おそらく、公然わいせつになるのでは。

医師　着てるじゃないですか。

警察官　これ、署の宿直室にあったやつを無断で借りて。

医師　宿直室にバスローブか（笑）。最近のお巡りさんはオシャレですね。

警察官　何か着せなきゃならなかったんで。倉庫に服はありますが、全部証拠品ですし。

医師　靴もちゃんと履いてる（靴を見て）……それもスパイクつき。

警察官　草野球チームの備品です。裸足だったんで。

医師　警察署にチームがあるんですか？

警察官　自分も所属しています。セカンドです。打順は六番。

医師　野球か……盗んだり殺したりもあるが、警察で、いいんですか？

警察官　はあ（苦笑）。

看護婦（男のバスローブをめくり）この下には何も？

警察官（看護婦に初めて気づいたように）ああ、びっくりした！

医師　彼女、さっきからいましたよ。

警察官　何もつけてません。軽犯罪法違反にはなるでしょう。軽犯罪でも犯罪だから犯人と呼んでも間違いではないと。

医師　で、この犯人さん、括弧仮を留置所でなく病院へ連れてきたわけは？

警察官　ご覧の通り正常じゃないので。

医師　正常じゃない？

警察官　先生も今、変わってると。

医師　変わってるとは言いましたが、正常じ

やないとは言ってませんよ。変わってるから正常じゃないとは限らない。結構難しいんですよ、正常か正常じゃないかの線引きは。我々のような玄人にも。

警察官　自分のような素人には無論わかりません。どう変わっているのか、先生に診断してもらえということだと思います。

医師　精神疾患の疑いがあると？

警察官　署長はそう言っておりました。

医師　で、署長に命じられ、あなたが当院に連れてきた。でも受付で困ったでしょ。大体当院の受付はよろしくない。企業では大概受付には親切で愛想のいい、社内で一番可愛いらしい子を置くのに、それがここでは居丈高な物言いをする傲慢なブスだ。

看護婦（たしなめて）先生。

医師（構わず）あいつらには患者さんに対しての愛もリスペクトもない……ちゃんと応対してくれましたか？

警察官　正直、迷惑そうな顔をされました。自分は署長の指示通り、精神科への受診をお願いしたのですが。

医師　ＥＴＣへ行けと。

警察官　ところがそのＥＴＣの診察室の場所がわからない。この病院はやたら広くて、廊下が迷路みたいに入り組んでいて。通りがかったスタッフにうかがっても要領を得ないし。中には、「ＥＴＣって何ですか？」なんて聞く人までいて。しょうがないからもう一度受付に戻ろうとしたら、たまたまというか、偶然ここに。

医師　プレートがあった。

警官　かなり歩きました。三十分くらいは迷っていたかも。

医師　当院の敷地は東京ドームの倍です。延床面積は病棟もあわせて約十万平米。

警察官　十町歩ですか。

医師　ご実家は農家？

警察官　岩手県は盛岡の在です。

医師　自慢じゃないが、僕だっていまだに迷

うことがあります。

看護婦　（ぼそっと）自慢じゃないです。

医師　迷わなくても受付からここまで三百メートルはある。大概の患者は腹を立てたり、途中で不安になって戻ってしまう。二度と来ません。挫折せず、ここまでたどりついたあなたはすごい。学生時代、ワンダーフォーゲル部にでもいました？

警察官　いえ……先生、ＥＴＣって？

医師　それです。

警察官　は？

医師　診察室に入ったら、あなたはまずそう尋ねるべきだった。それをいきなり、「先生、よろしくお願いします」などと投げ遣りな丸投げをするから、僕は世の中の病気の数の話から始めなきゃならなくなった。

警察官　すみません。

医師　何だと思ったんですか？

警察官　エマージェンシー、何とかじゃないかと。救急の何か。

医師　救急？　ＥＲですか？　この人、救急患者じゃないでしょ。

警察官　自分、英語はあまり。

医師　英語じゃない。ラテン語です。

警察官　らてんご？

医師　イタリア語の漢文のようなものです。正しくはエトセトラ。

警察官　それなら知ってます。そうか、ＥＴＣ。エトセトラか……確かその他って意味ですよね。

医師　はい。

警察官　なぜその他なんです？

医師　ここがその他科だから。

警察官　その他科？

医師　心療内科とか消化器外科とか泌尿器科とか肛門科とか、専門毎になってるでしょ。最近ではさらに細かくなって、思春期外来とか肥満外来、不眠外来なんてのもある。当院には全部で四十八の科があります。それで仮名手本病院蔵（笑）。

警察官　かなでほん？

医師　ここ、笑うところなんですがね。四十八あるから、いろは四十八の仮名……（警察官の顔を見て説明をあきらめ）で、ここはその他が専門。だからその他科。

警察官　その他科は何が専門なんですか？

医師　文字通りその他の病気。どの専門の範疇にも入らない病気を扱います。

警察官　難病のことですか？

医師　難病とは違います。難病は治療法が確立されていない、つまり治りにくい病気のことをいいますが、そうじゃなくて……主に奇病の類です。

警察官　きびょう？

医師　希望じゃないですよ。似ているが希望とはむしろ対極にある。おかしな病気、奇妙な病気です。病気なのかそうではないのか、ボーダーラインにあるようなもの。ときには医学の領域なのか疑わしいものまで。本来は精神科、神経科のテリトリーなんでしょうが、ちなみに僕もそっちの出身ですが……精神疾患、あるいは脳機能障害といってしまうのにはちょっと無理がある、精神科、脳神経科では手に負えないというか、扱いたくない、面倒な、厄介もの、そんな症例を扱います……おわかりいただけましたか？

警察官　何となく。

医師　病気のゴミ箱です。

警察官　そんな……。

医師　つまり僕はゴミ拾いだ。

看護婦　言い過ぎです。

警察官　で先生、この犯人というか……この人はその他なんですか？

医師　受付がそう判定したからここへ回されたわけですが、一目で精神疾患らしきことは想像できる。お多福風邪ではなさそうだ。では一般的な精神疾患かというと……バスローブにスパイクに……それ。

警察官（男の帽子をさし）これ？

医師　何たってその帽子ですから。普通の精神科に回すのはためらうでしょう。

警察官　シルクハットです。

医師　知ってますよ。正式にはトップハットというらしいですが。

警察官　先生、かぶるんですか？

医師　僕はかぶりません。昔の英国あたりの医者ならともかく……これも宿直室にあったんですか？

警察官　シルクハットの警官もいません。これはこの人が身につけていたんです。というか、これしか身につけていなかった。

看護婦　帽子以外、何も？

警察官　ああ、びっくりした！

医師　いちいち大げさに驚きなさんな。彼女がかわいそうでしょ。

警察官　すみません。

看護婦　いいんです。私、影が薄いから。

医師　露出症というのがありますね。性的倒錯の一種で、あれを女性に見せることで興奮するんですが、そういう輩、警察では珍しくないでしょ？

警察官　裸にコートを着て若い女性の前に立ちはだかり、いきなり前を開けるんです。うちの管轄でも毎年、その手の事件が五、六件は起きているようです。

看護婦　友人にいました。

警察官　露出症が！

看護婦　違います。見せられたんです。

警察官　被害者ですか。

看護婦　私はないです。

警察官　え？

看護婦　……見せられたことが。（小声で）私って魅力ないから。

警察官　そんなことないです！

医師　（にやりと笑い）おやおや。

看護婦　自慢してました、彼女。みんなも羨ましそうで……（小声で）私もちょっと。

医師　高そうですよ。

警察官　え？

医師　（帽子にふれ）だいぶ使いこんでるが、ものはよさそうです。

警察官　診察が始まってるんですか？

医師　というより捜査ですかね（笑）……現代の我国では特殊な仕事にかかわる人でなければかぶらない帽子。

警察官　特殊な仕事というと？

医師　皇室関連とか。そうだ、皇宮警察は？

警察官　さあ。

医師　馬車の御者が似たようなのをかぶってますね。あとはミュージカルの役者くらいか……それでこの人、これをやったんですか？（白衣の前を開く）

警察官　は？

医師　だから、これを（開く）。

警察官　いえ、初めから裸ですから。

医師　初めから？

警察官　女性にあれを見せつける意図はなかったようです。

医師　ないってどうしてわかるの？

警察官　つかまった時、自分が裸だってことに気づいてなかったようです。

医師　とぼけてるんじゃないの？

警察官　ほんとらしいです。だから、犯罪とか犯人とかいうのも微妙なところで。

医師　ではどうして……。

看護婦　どうしてこの人、帽子を脱がないのかしら。

医師　そういやそうだな。

警察官　脱がないのではなく脱げないのです。

医師　脱げない？

警察官　はい。

医師　それは何か心理的な抑圧があって脱げないということ？

警察官　いえ、単に物理的に脱げないんです。無理矢理脱がそうとしても脱がすことができません。

医師　脱がせられない？　これが？　そんな馬鹿な。冗談でしょ？

警察官　冗談ではありません。なんならやっ

てみてください。

医師　ほんと？

立ち上がり、男の帽子を脱がそうとする。脱げない。

医師　ほんとだ。

警察官　頭から離れません。無理に引っ張るとひどく痛がります。少々きつくても普通脱げるでしょ。それがびくともしません。柔道の有段者が三人がかりで脱がそうとしましたが、ダメでした。

医師　瞬間接着剤で貼り付けてあるのかな。

警察官　鑑識によると、接着剤の成分は検出されないそうです。

医師　まわりをお湯で温めたら？

警察官　瓶の蓋を開けようってわけじゃ。

医師　なぜだろ（椅子に座る）。

警察官　これも何とかしてもらいたいから、ここへ来たわけです。

医師　でも、そういうのってレスキューじゃないの？　それこそ救急の出番。

警察官　帽子が脱げないだけで、命があやうくなってるわけじゃないんで。

医師　そりゃそうだけど。

警察官　何かいい方法ないですか？

医師　むしろ病院じゃなくて帽子屋に頼むべきじゃない？

警察官　事故ということでしたら製造者責任もありますが。

医師　この人の帽子なんだよね？

警察官　わかりません。ほとんど事情聴取できてませんから。

医師　何者かもわかってないの？　じゃ、保険証ないの？　健康保険入ってないと困るよ。僕が会計から責められる。

警察官　診察費は警察から出ます。

医師　そう……で、整理すると、警察が僕に期待することは何？　この人の素性を聞き出すこと？　なぜ全裸に帽子だったの

かを聞き出すこと？　頭から帽子を脱がせてやること？

警察官　全部です。というか、それらは関連してるわけですし。ちなみに警察として問題にしたいのは、裸で町を歩いていたことだけです。要するに責任能力の有無です。珍しい帽子をかぶっていることも、それが頭から離れないことも法律にふれるわけではありませんから。

医師　ふーん。

警察官　どうされました？

医師　失礼。ずいぶんしっかりしておられるなと思って。

警察官　警察官になっても日々勉強しなければ上には行けません。

医師（つぶやく）向上心はあると（看護婦をちらっと見る）……この帽子、やっぱりこの人のものなんだろうね。

警察官　盗んだものとか？　でも頭にぴったりだし。

医師　脱げないんでしょ。

警察官　ええ。

医師　柔道三人でも。

警察官　はい。

医師　自分のだったら普通、そういうことないんじゃない？

警察官　盗品だとまた面倒だな。

医師　似合ってるか似合ってないかもヒントになるだろうけど、この恰好じゃ見当つかないし……で、急ぐんですか？

警察官　え？

医師　いや、いろいろ解明するのに時間がかかりそうだから。

警察官　早いにこしたことはないですが……先生もお忙しいでしょうし。

看護婦　今日はもう予約はないです。

医師　じっくりやりましょうか。

警察官　はあ……。

医師（あらためて男に向かって）さてと……あまり警戒してないようですね。僕が医師

だとわかっているんでしょうか。
警察官　たぶん。
医師　あなたは黙って。
警察官　すみません。
医師　……ふーん。

医師、男を眺めまわす。

医師　全然しゃべらないの？
警察官　……。
医師　（警察官に）あなたに聞いてるんです。
警察官　トイレに行きたい。
医師　どうぞ、遠慮なく。
警察官　違います。この人です。
医師　トイレに行きたいって？
警察官　発した言葉はそれだけです。
医師　それ以外、まったく語らず？
警察官　語らないというより、わからないようです。
医師　記憶喪失か……あなたのお名前は？
男　……。
医師　あなたのお歳は？
男　……。
医師　お住まいは？
男　……。
医師　ダメですな。（看護婦に）君、何か聞いてみて。
看護婦　私がですか。
医師　女性の方がいいかも。
看護婦（男に）あなた、ご家族は？
男　……。
看護婦　ご家族いないんですか？
男　（うなずく）……。
警察官　答えた！
医師　少しは言ってることわかるんだ。
看護婦　おひとり？
男　（うなずく）……。
医師　続けて。
看護婦　お名前は？
男　（反応なし）……。

警察官　ダメですね。
医師　突破口になると思ったんだが。
看護婦　おひとりですって。
警察官　それだとますます手がかりがないなあ。失踪届も出さないだろうし。
医師　まあいいよ。トイレには行きたいというみたいだから、そこらを汚すことはないし……さて、どうするか……とりあえず、レントゲンでも撮ろうか。
警察官　レントゲンですか？
医師（男の頭をさし）このあたりを中心に。
警察官　ここを？
医師　この帽子が何か影響してるんだと思う。脱げないなんて変でしょ。ここに何か重要な鍵がある。間違いなく。
警察官　帽子が脱げたら正常に戻るとか。
医師　それはまだわからんが……こいつがこの人の頭から離れない理由は見つかるかもしれない。
警察官　わかりました。では……。
医師　いいよ、いい。あなたはここで待ってて。僕が連れていくから。
看護婦　先生、私が。
医師　大丈夫、大丈夫だから。（目配せ）君はここにいて、彼のお相手をして。

医師、男を立たせる。

医師、男を連れて退場。

警察官　おもしろい方ですね。
看護婦　え？
警察官　先生。
看護婦　いい方です。ちょっと変わってるけど……おかけになって（椅子をすすめる）。
警察官　どうも（座る）。
看護婦　あの、お茶でも。
医師（警察官に）ゆっくりしてって。
警察官　はあ……。

警察官　おかまいなく。

看護婦　といってもお茶、ないんですけど。

警察官　ですよね（笑）。

看護婦　売店で買ってきましょうか？

警察官　いいです。

看護婦　……点滴ならありますけど。栄養剤の点滴、します？

警察官　自分がですか？

看護婦　私、針、刺すの上手なんですよ。

警察官　いや、結構です。

看護婦　何のおかまいもできませんで。

警察官　とんでもない……時間、かかるんですか？　レントゲン。

看護婦　混んでいることもありますから。それに……。

警察官　それに？

看護婦　先生、方向音痴なんです。それも病的なくらいひどい方向音痴。だからレントゲン室までたどりつくのに相当……。

警察官　かかる？

看護婦　ええ。

警察官　先生、いつも立ち会うんですか？

看護婦　そういうわけじゃないんです……先生、私に気をつかってくださってるんです。ここ、先生と私の二人だけだし。だからいつも悪いねって。

警察官　二人だけ？

看護婦　ええ。先生、「もし君が結婚できなかったら、それは僕の責任だ」って。

警察官　結婚？

看護婦　看護婦って勤務時間があれだから、普通のお勤め人とおつきあいするの難しいんです。知り合ってもデートの時間とか調整するのたいへんだから、うまくいかなくなること多いし。職場は女ばかりでしょ。最近は男性の看護師もいるけど、まだまだ少ないし。女子校に転校してきた男子みたいだし。事務所の方は事務の女性たちの縄張りだし。

警察官　お医者さんがいるじゃないですか。

看護婦　笑う。

警察官　おかしいですか？

看護婦　すみません。ドクターなんて結婚相手に考えたこともありません。ほとんど妻帯者ですし、年齢もいってるし。若くて独身でかっこいいドクターなんて、テレビの医療ドラマの中だけです。そりゃ、どこかに奇跡的に存在するかもしれませんが、そんなドクターは私たちなんか相手にしません。大抵どこかの大病院の理事長の一人娘なんてのが予約されてるんです。でもね、ドクターで独身というだけで、不細工でも性格が悪くてももてるんですよ。向こうもそれを承知してる。遊ばれてるだけだとわかっていても、一縷の望みを託して愛人みたいに尽くす子もいますけど……看護婦にとって、ドクターとの結婚なんておとぎ話です。アプローチしてそれが知られたら職場にいられませんよ。全員が敵になります。女の嫉妬で呪い殺されます。藁人形に注射針（笑）。

警察官　わかります。自分らも勤務が変則で、OLと合コンして知り合ってもデートの時間とか調整するのがたいへんです。うちは逆に男子校みたいなところで、婦人警官もいるにはいますが、まあ、ほとんどが、その何というか……でもたまにはいるわけです。「おっ！」というのが。でも競争率すごいし、それこそ口説いたことがばれたら職場にいられません。全署員が敵になります。警察官の嫉妬は怖いです。背中から撃たれます。

看護婦　ほんとですか？

警察官　それに可愛い婦人警官の狙いはペーペーの巡査ではなく、もっと上の人です。といっても署で警部以上は年齢が高い。ほとんど妻帯者ですし。彼女らが狙うのはキャリアです。上級公務員試験を通って警察

に入ったエリートもスタートは所轄の交番勤務です。そこから異動のたびに階級が上ってあっというまに警視になって、どこかの署長、県警本部長、警察庁の幹部へという出世コースをすすみます。魚でいえば鰤です。鰤になってからでは手が届かなくても、幼魚のうちなら何とかなるって。キャリアなんて連中は勉強ばかりしてたから色恋沙汰とは無縁で、だから色仕掛けにはすぐひっかかるだろうと思われてる。でも敵も十分警戒してるからなかなか釣られない。

看護婦　似てるんですね。

警察官　患者さんがいるじゃないですか。患者の家族もいるし。親切にしてくれた看護婦さんと仲よくなった、なんてこともあるんでしょ。我々はそうはいかない。美人の容疑者がいたからって、つきあうわけにはいかない。

看護婦　若くてハンサムでお金があって、そんなに深刻な病気や怪我じゃない、たとえばスキーで足を骨折したとか。そんな都合のいい患者さんは滅多にいません。退院した患者さんとおつきあいしたって話はよく聞くけど、あまりうまくいかないみたいです。だって病院にいるときって、たいがい気持ちがめげてるでしょ。そんなときにやさしくされると、誰でもぐっとくるらしいんです。

警察官　白衣の天使。

看護婦　街で会うとがっかり（笑）。

警察官　リゾート地で出合ったカップルもうまくいかないっていいますもんね。

看護婦　だから先生、すごく気にしてくれて。ここ、患者さん少ないし。いてもあまり普通の方が来ないでしょ。間違っても結婚相手になるような人は。だから……（小声になって）今度のような（警察官をちらっと見て）……今人気の公務員だし……すごく気をつかってくれてるんです。

警察官　（急に緊張して）自分のことですか。

看護婦　（もじもじと）……。

警察官　（声が裏返る）リストラはないですが……たぶん、看護婦さんより給料は安いと思いますし……結構危険なこともあるし。逮捕時に凶悪犯に刺されたりとか。（急に明るく）でも殉職ということになると、二階級特進ですから自分の場合、警部補になります。弔慰金も遺族年金もあるし、遺された家族にはそれなりに手厚く……。

看護婦　いや！

警察官　え？

看護婦　死なないで。

警察官　え？……はい。

看護婦　若くて未亡人なんて、私、そんなのいやです。

警察官　はい。

看護婦　子供たちもかわいそう。

警察官　子供たち……。

看護婦　出世なんてしなくていいから、生きていて。ずっといっしょに……。

警察官　はいっ（思わず椅子から立つ）。

見つめ合う二人。近づく。警察官、帽子を脱ぐ。

月子が入ってくる。十五、六歳と思われる少女。パジャマにカーディガン姿。厚手のスリッパ。頭に飛行帽をかぶっているので少年のように見える。二人に気づく。

月子　こら、何やってんだ。

看護婦　（あわてて離れて）……月ちゃん。

月子　（警察官をさし）コスプレ？

看護婦　違います。本物のお巡りさん。

月子　お巡りさんの患者！　危ねえ危ねえ。鉄砲持ってるんだろ？

看護婦　患者さんを連れてきたの。

月子　連行？

警察官　引率かな。

月子　お巡りさんが連れてくるんだからすっごく悪いやつ？

看護婦　そんなんじゃないわよ。

月子　あれ、変態ドクターは？

看護婦　変態じゃないでしょ。

月子　変態だよ。

警察官（看護婦に）変態なんですか？

看護婦　違います。

月子「おい月子、具合はどうだ。おや、熱がありそうだな。計ってやるからパンツ脱げ。先生は肛門で計るのが好きなんだ」、なんてことというやつが変態でなくて誰が変態なんだ。

看護婦　嘘ですって。

月子　口では言わないが、目で……。

警察官　どちらのお嬢さん？

看護婦　入院患者です。お部屋をしょっちゅう抜け出して。

月子　ここはいつも暇そうだから、お相手をしてやってる。

警察官　ＥＴＣの患者さん？

月子　くるくるぱー科の患者じゃないぞ！

看護婦（たしなめて）月ちゃん。

警察官　月ちゃんっていうんだ。

月子　ムーンの子と書いて月子。人にはよくルナチックといわれるが、くるくるぱーではなーい。

看護婦　くるくるぱーとか言わないの。

月子　最近月のものがないが、妊娠してるわけではなーい。

看護婦（警察官に）浮かれてるんです。外の人と話す機会がないから。

月子　月子が来なかったらキスしてた？

看護婦　何言ってんの。

月子　ごめんね、邪魔して。

看護婦　しません。

月子（警察官に）ほんと？

警察官　はい。

月子　嘘つくと手錠かけるよ。

警察官　はい。

月子　ドクターは？
看護婦　レントゲン室。患者さんと。
月子　げっ、オタクの巣窟。
看護婦　もう。
月子（警察官に）あそこにはね……。

雪子、登場。同じくパジャマ姿で飛行帽。同年代。

雪子　やっほー……月ちゃん来てたの。
月子　惜しかったな、雪ちゃん。キスシーンを見逃しちまったぜ。
雪子　え、誰の？　この二人が？　ここでキッスしてたの？　いやだあ、アダルトビデオみたい。淫乱ナース禁断の制服。
看護婦　してません！
雪子（警察官をさし）コスプレ？
月子　本物。
雪子　本物のお巡りさん！　鉄砲持ってる？
月子　お願いです。雪子を撃たないで。
雪子　大丈夫。タマなしだから。
警察官　月ちゃんたら、お下品。
看護婦　この子も入院患者？
雪子　ええ。
　スノウの子と書いて雪子と申します。スノウホワイト、白雪姫は正しくは雪白姫といって雪のような白い肌をしていたからです。雪子姫も毒リンゴを食らってＩＣＵで寝ていたところを北区王子出身のイケメンドクターにフレンチキッスされて目が覚めるのです。めでたしめでたし。
月子　何がめでたしだ。雪ダルマみたいな顔して。
雪子　月ちゃんたら、いけず。でも衝撃の告白。雪子にはまだキッスの経験がありません……見たかったなあ、キッス。
看護婦　してませんから。
月子　もう少しでするところだった。
看護婦　しません！
月子　こんなのとしたくない？

看護婦　（うっかり）そんなことないです。
月子　（警察官に）そんなことないって。
警察官　大人からかうと逮捕するよ。
雪子　……あれ、変態ドクターは？
看護婦　変態じゃないでしょ。
雪子　「おい雪子、熱がありそうだな。計ってやるからパンツ脱げ。先生は肛門で計るのが好きなんだ」なんていう人が変態でなくて誰が変態なんでしょう。
警察官　（雪子に）ほんと？
看護婦　嘘です。
雪子　口では言わずに、目で……。
看護婦　あなたたち検温の時間じゃないの？
雪子　すませてきました。ここんとこへ（胸を突き出し）ぎゅーっと挟んで。
月子　体温計挟むほどオッパイないだろ。
警察官　あのさ。
雪子　何ざんしょ。
警察官　（二人の帽子をさし）それ？
月子　これ？
雪子　これ？
警察官　珍しい帽子だね。
月子　おお、そういえばみんな帽子じゃないか。帽子つながりだな。
雪子　これは飛行帽と申します。
警察官　ひこうぼう？
雪子　飛行機乗りがかぶる帽子です。飛行機乗りと申しましても、（急に大声で）スチュワーデスといちゃいちゃしてるパイロットとかいう軟弱者じゃないっ！　大体、ジェット機だのジャンボだのなんてのは飛行機じゃないっ！（声を落とし）飛行機といえば。
月子　プロペラで動く！
雪子　飛行機乗りはリンドバーグ。
月子　翼よ、あれが巴里の灯だ。
雪子　星の王子様のサンテジュグペリ。
月子　アフリカで航空郵便配ってた。
雪子　極めつけはポルコ・ロッソ。
警察官　誰、それ？

月子　『紅の豚』ｂｙ宮崎駿を知らんのか。

雪子・月子　飛ばねえ豚は、ただの豚だ！

月子と雪子、両手を広げ、飛行機になって診察室の中を飛び回る（走り回る）。口でプロペラ音を再現。やがて空中戦に発展。

あっけにとられている警察官。

看護婦　二人ともやめなさい！　熱、出ちゃうわよ。

そこへ花子が入ってくる。同じくパジャマ姿に飛行帽。二人の空中戦に割り込む。宙返りをしたかと思うと、月子の後ろにぴったりついて〝機銃掃射〟。撃墜する。

月子（床に倒れ）やられたー！

雪子　出たっ！　花ちゃんの左捻り込み。

警察官　ひだり、ひねり……。

花子　左捻り込みとは宙返りの頂点で右方向舵を使い機体を左に滑らせながら降下パスに入れることでコーナー速度を維持し、大旋回率を得るとともに旋回効果に伴う高度の低下を抑止し、普通の宙返りパスを回る相手に対して有利に立つものである。

雪子と月子、拍手。

雪子　左捻り込みで花ちゃんの右に出るものはおりませぬ。

月子　何たって憧れの人が撃墜王、坂井三郎という生粋の零戦マニア。

花子　正しくは零式艦上戦闘機五二型。全幅十一メートル。全長九、一二一メートル。千百三十馬力、最高速度毎時五百六十五キロ。六千メートルを七分一秒で上昇。

警察官　何かすごいな。

花子　これを見よ（カーディガンの下に筒状

のボール紙）。米軍機を一撃で撃ち落とした二十ミリ機銃である……（気がついて）あ、お巡りさん。コスプレ？

月子　本物。

花子　じゃあ鉄砲持ってる？　それをぜひ愛機の翼に装着したい。

雪子　タマなしなんですって。

花子　なんだあ。

月子　ここでキスしてたんだぜ。

看護婦　してません！

花子　キス！　見たかったなあ……おっと、ご挨拶が遅れました。フラワーの子と書いて花子です。花子といってもゾウでも女芸人でもトイレのお化けでもありません。立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花。では寝れば？

警察官　え？

花子　花子は毎日十二時間寝てるんです。自称スリーピングビューティ。ならば寝てる姿を花に喩えて……あ、大事なこというの忘れてた。ここの変態ドクターなんだけど。

警察官　やっぱり肛門？

花子　へ？

警察官　熱計るからパンツ脱げって。

花子　（月子と雪子に）お巡りさんも変態？

月子　うん、ちょっとな。

雪子　少女のお尻に興味津津。

警察官　……。

花子　お花はんがレントゲン室のそばを通ったときのことどす。ドクターが変な人をつれていたのです。どう変かといいますと、何とバスローブを着て。

雪子　入浴後？

月子　そんなやついるじゃん。差額ベッドの成金オヤジ。

花子　野球のスパイク、履いてました。

雪子　イチローさん？

花子　それからそれから、おっかしな帽子をかぶってるんですよー。

月子　おかしなって？

花子　こういうやつ（手で示す）。
雪子・月子　こういうやつ？（同じく）
花子　おかしいでしょ。
警察官　シルクハットっていうんだよ。
花子　へ？
警察官　シルクハット。
月子　その変な人、お巡りさんが連行してきたんだって。
花子　連行！　犯人？　悪いやつ？　少女のパンツ、脱がしたりしない？
警察官　危険じゃないから。たぶん。
花子　そうかお巡りさん、お仕事中なんだ。
雪子　その合間にナースとフレンチキッスしてたんです。
看護婦　してません！
月子　シルクハット、月子知ってる。マジシャンがかぶってるやつ。中から鳩やウサギやいろんなものが出てくるんだぜ。
警察官　そうか、マジシャンか。
看護婦　そういうのもありますね。
警察官　思いつかなかった。
看護婦　きっとそれかも。
月子　何、二人で納得してるんだ。
雪子　これからキッスするの？
警察官（看護婦に）その線をさぐってみてもいいですね。
月子　ちぇっ、大人同士の会話か。
花子　お花坊、報告続けます。ドクターと変な帽子の人がレントゲン室に入ったんだわ。あやしい。これは絶対あやしいと思った花子海軍少尉は、ただちに索敵行動にうつったんであります。
看護婦　さくてきこうどう？
警察官　偵察です。
花子　知っての通り、レントゲン室は防備がえらく堅いのですが、対空砲火をかいくぐり、見事潜入に成功しました。

雪子と月子、拍手。

看護婦　ダメよ、あそこで遊んじゃ。
花子　電磁波を浴びすぎ頭のいかれた要塞の司令官、ミスター×（バツ）もおりました。
警察官　ミスター、バツ？
月子　放射線のテロリスト。
看護婦　レントゲン技師です。
花子　ミスターはＭＲから。正式にはＭＲＩ。マグネチックレゾナンスイメージング。磁気共鳴画像。バツはＸ。エックス線のこと。やつは超バッテンなオタク野郎なのだ。
月子　少女の骨のコレクター。
警察官　骨のコレクター！
看護婦　写真です。患者の女の子のＸ線写真を部屋に飾ってるとかいう噂が。
月子　噂じゃなーい。
雪子　雪子は骨盤を盗撮されました。まだ処女なのに。くすん。
警察官　そういうのって犯罪なのかな。
看護婦　ただの噂です。
花子　みんな、花子の話を聞くように……ドクターがバツと言い争っていました。ドクターはその人を踏切カンカンのＭＲＩにぶっこみたかったのですが、バツは帽子を脱げって。金属が入ってたら危ないから。でもドクターは「帽子は脱げないんだ。脱げないからここへ来たんじゃないか」「中に何が入ってるんです？」「わからんよ。それがわからんから調べに来たんじゃないか」「訳のわからんものは撮れません」……てな具合でちっとも埒があかんので、花子はつまんなくなって帰投したのですが、あれは一体何なのでありましょうか。
月子　帽子が脱げない？
警察官　脱げないんだ。頭に張りついて。
雪子　まあ、怖い。ホラー？
月子　……髪の毛だ。
雪子　髪の毛？
月子　髪の毛が帽子の中から、こうやって。
花子　こうやって？
月子　帽子をつかまえてるんだ。髪の毛は怪

力だから。女の髪は象もつなぐ。

雪子　違うわ、月ちゃん。旧約聖書のサムソンは愛人デリラに髪の毛を切られて怪力を失うのよ。

月子　くそっ、月子にも髪の毛さえあれば。

花子　月ちゃん、ファイト一発。次の満月の夜までにはきっと。

雪子　ぼーぼーよ。

月子　うおーん（天井を向いて吠える）。

ミスター×、入ってくる。白衣。三十代前半。

ミスターX　……まいど。

花子　噂のボーン・コレクター。

ミスターX　何だ、第七のお馬鹿トリオか。

月子　お巡りさん、早く手錠かけて！　こいつがレントゲン室の盗撮魔だぞ。

雪子　鉛のパンツ履いてるんですよー。

ミスターX（看護婦に）コスプレ？

看護婦　本物です。

警察官　盗撮の疑いがあるんですが、撮ったんですか？

ミスターX　そりゃ撮ってますよ。レントゲン技師なんだもの。それが仕事だもの。

警察官　少女の、その、恥ずかしい写真も。

ミスターX　恥ずかしいかどうかは……。

警察官　部屋に飾って、それを見ながら毎晩興奮してるって。

看護婦　そんなこと言ってないのに……。

ミスターX（警察官に）できる？　骨の写真で？

警察官　人の趣味はいろいろだから。下着とか靴とか集めるやつもいるし。

ミスターX　俺も下着ならいけるかも。あんただっていけるでしょ、正直な話。

警察官　まあ、骨の写真よりは……。

看護婦　いやっ。

ミスターX　骨の写真が嫌いってわけじゃない。もちろん好きだ。あれは、何というか、

神秘的な、幻想的な。

花子　ほらほら。

ミスターX　ああ、あの女、いい骨してるな。撮ってみたいなという衝動が起きることはままある。

雪子　ほらほらほら。

警察官　雪ちゃんの骨盤、撮ったのか？

ミスターX　だって、あれは雪子の担当に頼まれて……撮りましたよ。うん、あれはなかなかいい出来だった。

月子　自白した。

ミスターX　雪子の骨盤はいい骨盤だ。俺が撮った骨盤のベスト3に入る。ここんとこの坐骨のカーブが何ともエロチックで。それから恥骨がここでくっついて……。

雪子　いやーっ、恥骨だって！

月子　お巡りさん、雪ちゃんが卑猥な視線と言葉で凌辱されてる！　現行犯だ！

警察官　強制わいせつかな。

ミスターX（無視して）先生は？

看護婦　まだ帰ってません。

ミスターX　まだ？　俺が出るずっと前に帰ったんだぜ。

看護婦　また迷ってるんです。

ミスターX　写真あがったから届けにきたんだ。急いでるみたいだし……まいったよ、変な男連れて来てさ。頭のところを撮れって。変な帽子かぶったままで。

月子　シルクハットというんだ。

ミスターX　知ってるよ。

警察官　家にあるのか？

ミスターX　ないけど知ってますよ。

警察官　帽子で興奮する？

ミスターX　しない！

雪子　骨ではする。

花子　撮ったの？　帽子。

ミスターX　しょうがないだろ。ＭＲＩは無理だからＸ線で何度も撮り直してさ。

看護婦　でも撮れたんでしょ。

ミスターX　まあ何とか。

花子　見せて、花子に見せて。
ミスターX　ダメだよ、先生に無断で。
雪子　雪子の骨盤は見たくせに。
月子　お巡りさんにならいいだろ。そいつを連行して来たんだから。
ミスターX　何？　あれ、犯罪者なの？　何やらかしたの？
雪子　おまえも犯罪者だ。
警察官　裸で町をうろうろしてたんだ。あの帽子だけかぶって。おまけにあの帽子が脱げないとくる。
ミスターX　脱げないかもね。
警察官　かもねって？
ミスターX　だって、これだもの（フィルムを出して警察官に見せる）。
警察官（凝視）……。
雪子　見たーい。
月子　見せろ。
花子　見せてくれー。

三人、強引に割り込む。

雪子　うわっ、頭蓋骨。
花子　髑髏だ髑髏だ。海賊だ。
ミスターX　その上だよ。
看護婦　何ですか、これ？
ミスターX　何に見える？
雪子　チョキのかたち、ジャンケンの。
花子　バッテン。
月子　ハサミ。
警察官　ハサミだね。
ミスターX　俺もそう思う。これはハサミだ。この帽子の中にはハサミが入ってる。MRIにいれたらえらいとこだった。
月子　鳩もウサギもいないのか。つまらん。
雪子　手品でハサミなんて使う？
花子　紐を切ってまたつなげるマジック、あるでげしょ。
雪子　この人、マジシャンなの？
花子　帽子の中に入れたのを忘れてかぶっち

やったのか。
看護婦　でもこのハサミ。
ミスターX　変だろ。
月子　浮いてる。
花子　えーっ！
雪子　ほんと？
警察官　帽子の中でハサミが宙に浮いてる。
月子　帽子の中は無重力なんだ。
花子　異次元だ。
雪子　サイエンスホラー。
ミスターX　変なのはそれだけじゃない。ほら、これ、見て（別のフィルムを出す）。
花子　同じじゃない。
雪子　同じ同じ。
月子　違う。ハサミの開き方が違う。
雪子　違う違う。
看護婦　どういうことなの？
警察官　ハサミが動いているんだ……開閉してる……閉じたり開いたり、ということは。
月子　切ってる。
ミスターX　切ってるのかもな。
看護婦　何を？
ミスターX　わからん。
花子　これは妖怪だぞよ。
雪子　花ちゃん、ハサミの妖怪？
花子　付喪神だぞよ。
雪子　つくもがみ？
花子　古くなった道具をぞんざいに扱うと妖怪になって祟るのじゃ。
雪子　ホラー、ｂｙ京極夏彦。
月子　髪の毛。
看護婦　え？
月子　髪の毛を切ってるんだ。これ、ただのハサミじゃない。床屋が使うプロ仕様だ。
雪子　月ちゃん、すごーい。
警察官　ほんとに床屋のハサミ？
月子　月に一度、病棟に床屋のおっちゃんがやってくる。
花子　スウィニートッド。フリート街の悪魔の理髪師。

雪子　ホラーミュージカル。
警察官　署長に何て報告したらいいんだ。帽子は頭からはずれません。帽子の中には床屋のハサミがありますなんて……。
雪子　チョキチョキ。
花子　シザーズハンドｂｙジョニーデップ。
看護婦　誰かが。
警察官　え？
看護婦　誰かが帽子の中にいて、その誰かがハサミを使って……。
警察官　誰がいるんですか、帽子の中に。
看護婦　だってこれマジシャンの帽子なんでしょ。人が隠れてるってことだって。
ミスターＸ　そんなことあるわけないだろ。
警察官　帽子の中に床屋が……。
ミスターＸ　馬鹿言うなよ。誰もいないし、何もないよ……ハサミ以外は。
月子　誰かいれば骨が写る。
花子　でも妖怪だから写らない。
雪子　骨だけの妖怪もおりますが。
警察官　これ、署長には見せられないな。
月子　帽子、ぶっこわせばいいじゃん。それこそハサミで切っちゃえばいい。そうすればわかる。全部ぶっこわさなくても、穴をあけるだけでいい。
警察官　先生、高そうな帽子だって言ってたし。盗品だったらまずいし。もしあいつのだったとしても……。
ミスターＸ　帽子をこわすのは危険だぜ。
花子　どうして？　異次元だから？
雪子　どうして？　妖怪だから？
ミスターＸ　下手に刺激を与えたら、ハサミがこいつの頭に突き刺さるかもしれん。
花子　頭蓋骨穿孔手術。
雪子　ｂｙインカ帝国。

医師、戻ってくる。

看護婦　先生。
医師　ああ、疲れた。

警察官　迷ってたんですか？
医師　少しね。
看護婦　少しじゃないです……あの人は？
医師　トイレだよ。
警察官　トイレ？
医師　帰り際、「トイレに行きたい」って言いだすから連れてったんだ。でも個室に入ったまま全然出てこないから上からのぞいたわけ。そしたら便器に座ったまま、じっと何か考えてるわけ。「そこ落ち着くの？」って聞いたらうなずくから、「じゃあ、しばらくそこにいて瞑想してなよ。一時間ばかりしたら迎えに来るから」って……いろいろあって、あいつも疲れたんだろ。
警察官　置いてきたんですか！
ミスターX　逃げないかな？
医師　この病院からは逃げられないよ。定置網みたいなもんだ。ましてあんな恰好で。
看護婦　それはいいですが、先生、ちゃんと迎えに行けるんですか？
医師　大丈夫。そこはぬかりない。あの男の入った個室の扉にバツ印をつけてきた。大きなバッテンを（宙に描く）。
花子　そいつもミスターバツだな。
雪子　アリババと四十人の盗賊にそういうのがありました。
医師　（三人に気づいて）何だ、おまえたち！
月子　さっきからいただろ。
医師　今日は忙しいから遊んでやらん。部屋へ帰れ。そろそろ検温の時間だろ。
警察官　肛門、ですか？
医師　何言ってるの？
花子　花子はその帽子の人に会いたいずら。
雪子　雪子も会いたいっす。
月子　頭の上にハサミがあるんだぞ。
雪子　チョキチョキ。
医師　（ミスターXに）ほんと？
ミスターX　ほんとです。
医師　（フィルムを見て）……ほんとだ。
警察官　あまり驚きませんね。

医師　これでも結構驚いてる。
警察官　床屋が使うハサミだそうです。
医師　鍵ではなくハサミがあったか……。
月子　髪の毛を切ってるんだ。
医師　こらっ、もう帰れ！　帰らんとパンツ脱がすぞ！
花子　わっ、変態攻撃だ！　総員退却！
雪子　月ちゃん、退却、退却！

雪子と花子、月子を引っ張るようにして退場。

警察官　月ちゃん、やけに髪の毛にこだわってましたね。
看護婦　年頃の女の子だもの。髪がないのはつらいわ。
警察官　ないんですか！
医師　抗がん剤。
看護婦　副作用で抜けちゃうの。
警察官　それで帽子を……雪ちゃんと花ちゃんも？
ミスターX　雪子と花子は生えてるが、抜けてた時期もあったし。あいつら仲がいいから付き合いでかぶってるんだろ。
警察官　がん、なんですか。
看護婦　入院してどのくらいかしら。紀子ちゃんが一番長くて四年かな。
警察官　のりこちゃん？
看護婦　月ちゃんの本名。
ミスターX　月子ってのはベッドネーム。
警察官　ペットネーム？
ミスターX　ペットじゃない、ベッド。ベッドネーム。ペンネームとかハンドルネームとかあるだろ。病室の芸名だ（笑）。そんなの付けてるの、あいつらだけだが。
警察官　ずいぶん元気そうだから。
医師　あの病気はそういう時期もあるんです。
警察官　でもなぜ飛行帽なんだろ。
看護婦　寝る時もあれ、かぶってるみたい。
ミスターX　夢の中でどっか遠くへ飛んでい

きたいんだろ。

警察官　遠くへ……。

看護婦　先生。

医師　何？

看護婦　あの人が入ってるトイレって、どこのトイレなんですか。

医師　……えーとね、第五病棟のナースステーションの脇にある。

看護婦　あんな方まで行ったんですか。

ミスターX　時間がかかるはずだ。

医師　あれ？　第八？　第三か……。

看護婦　第三なんて、まるで方向が違うじゃないですか。

医師　だからちゃんとバツ印をつけて。

看護婦　それは個室の扉にでしょ。

医師　あ……。

ミスターX　こりゃたいへんだ（笑）。

看護婦　どこへ迎えに行けばいいんですか？

医師　えーと……。

看護婦　一時間たったら迎えに来るって言ったんでしょ。

警察官　自分が片っ端から回りますよ。

ミスターX　このでっかい病院にいくつトイレがあると思うんだ。大小あわせて百か所近くあるんだぜ。

警察官　百……。

ミスターX　待ちくたびれてどこかへ行っちゃうとまずいな。

看護婦　他のスタッフや患者さんに迷惑かけると困ります。

警察官　やっぱり一緒に行くべきだった。

医師（看護婦を手招きし）……ちょっと。

看護婦　何ですか。

医師（小声で）どうだった？

看護婦　どうって？

医師（警察官をちらっと見て）キス、した？

看護婦　しません！

暗転。

3

第七病棟の男子用トイレ。
個室が全部で四つ並ぶ。扉は閉まっている。（上手よりＡＢＣＤとする）
床屋（四十代）が手洗場で砥石を使い、ハサミを研いでいる。
と、個室から歌が聞こえる。
「あずきとぎましょか　人とって食いましょか　しょきしょき　しょきしょき」（花子の声）

床屋　ああ？

振り返って個室を見るが、どこからの声かわからない。

床屋　何だって？

「あずきとぎましょか　人とって食いましょか　しょきしょき　しょきしょき」（雪子の声）

床屋　俺は妖怪か？
花子　（個室Ａの上から顔だけ出し）床屋のおっちゃん、こんちは。
床屋　花子か。
花子　第三水曜だからおっちゃんがやって来るとにらんで、ここで待ち伏せておった。仕事はすんだ？
床屋　ああ、片付けた。
花子　カミソリで喉元掻っ切って。
床屋　恐ろしいこと言うな！
雪子　死体はミンチにしてミートパイの肉に。
床屋　何だそりゃ！
雪子　（隣の個室Ｂの上から顔を出し）スウィニートッド、フリート街の悪魔の理髪師。
床屋　雪子もいたのか。
雪子　ホラーミュージカル。

床屋　じゃあもう一匹いるだろ。
雪子　もう一匹だなんてあんまり。いくら月ちゃんがオオカミだからって。うおーん。
花子　月ちゃんは微熱が出たので部屋で休んでおる。本人は知恵熱だと言っておる。吐き気もするようだが、つわりではなーい。
床屋　どうでもいいが、男子トイレで遊ぶな。女子用へ行け。おまえら一応女だろ。
花子　近頃、とんと月のものがないが。
雪子　女は乗せない戦車隊。
床屋　何言ってるんだか。
花子　今日は何人始末した？
床屋　俺は仕事人か。男が五人、女が三人。
雪子　女は美容師さんじゃないの？
床屋　長いこといるくせに知らんのか。病院に美容師は来ないんだよ。
雪子　花ちゃん、知ってた？
花子　知らんかった。ナチュラルヘアーのわしらは髪の毛いじられることないから。
床屋　縁起でもないだろ。びようし、びようし。びようしなんて。
雪子　びようし？
花子　なるほど、病死か。
床屋　そういうこと。病院に美容師は来ない。
花子　それで利発でもない理髪師のおっちゃんが来るのか。
床屋　ほっとけ！
雪子　理容師ともいう。りようし、りようし。
花子　猟師、けものへんの。
雪子　漁師、さんずいにお魚の
花子　どちらも血のにおいがする。
雪子　スウィニートッド。
床屋　どうしてもそっちへ持っていくんだな。
花子　凶器についた血を洗い流して。
床屋　研いでるんだ……どういうわけか病人の髪を切ると切れ味が悪くなる。
花子　病人の髪には刃物をなまくらにする不思議な力があるのだ。
雪子　ヘアー。
床屋　不気味ことを言うな。

雪子　髪の毛には記憶がつまってるって、月ちゃんが言ってました。髪の毛の一本一本にいろんな記憶がつまってる。日本人の髪の毛は十万本だから全部で十万の思い出がつまってるの。それを切っちゃえば、思い出は消えてしまうって。

花子　昔のことはどんどん忘れるもんね。

雪子　でも、ちょっとずつだからみんな気づかない。いっぺんに抜けちゃったりするとそれに気づくんだって。雪子はお馬鹿さんだから気づかないけど、月ちゃんは感じてるみたい。

花子　つまり、おっちゃんは思い出の盗人だ。

床屋　……。

雪子　あれ、怒らないの？

床屋　心当たりがないでもない。この間も長いこと入院してるばあさんの髪をカットしてやったんだ。かれこれ三年ぶりだとか言ってた……そしたら忘れちまったんだ。いろんなことを。

花子　それはただの認知症。

床屋　それが認知症じゃないんだ。

雪子　メディカルホラー。

床屋　で、待ち伏せって？

花子　何？

床屋　俺を待ち伏せしてたんだろ。

花子　そうだっけ？

床屋　そう言ったろ。

花子　むさくるしい中年男を待ち伏せして愛の告白する趣味はない。

雪子　花ちゃん、ハサミ、ハサミ。

花子　あ、そうだ。おっちゃん、そのハサミ、見せて。

床屋　ハサミを？

雪子　帽子の中に床屋さんのハサミがあったのです。チョキチョキしてたのです。

床屋　はあ？

雪子と花子、個室から出てくる。

床屋のハサミを手にとる。

花子　これこれ、月ちゃんの言う通り。
雪子　同じ同じ。
花子　これ、高いの？
床屋　高いぞ。モリブデン鋼だ。
花子　もりぶでん。
雪子　何だか知らないけどすごそう。
花子　最近、マジシャンにハサミを貸したりしてないか？
床屋　するかよ、大事なものを。
花子　マジシャンとは限らんが。
床屋　何を言ってるのかわからん。
雪子　雪子たちにもよくわからん。
花子（ハサミを開閉しながら）もりぶでーん。
床屋　こら、玩具にするな（取り返す）。
花子　ところで髪結いさん、おまえさん、シルクハットを御存じかな？
床屋　おまえはご隠居か……知ってるよ。
雪子　ハサミが入ってたの。
花子　シルクハット、持ってる？
床屋　そんなもの持ってるかよ。大体、帽子なんてものは床屋の敵だ。
花子　敵？
雪子　エネミー？
床屋　だってそうだろ。帽子で頭を隠してりゃ髪を整えなくていい。営業妨害だ。
花子・雪子　なーる。
床屋（二人の帽子を見て）でも、おまえたちのその帽子はいいな。
雪子　飛行帽と申します。
床屋　うちのじいさん、戦争中海軍の航空隊にいたんだ。同じ帽子をかぶった写真が田舎の仏壇にある。
花子　戦死したのか？
床屋　ああ。
雪子　特攻隊？
床屋　いや、南方戦線で死んだ。軍隊に入る前は床屋をやってた。
花子　おっちゃんは三代目か。
雪子　リメンバー、パールバーバー。

床屋　戦地では仲間たちの頭を刈ってやってたらしい。

雪子　何だか知らないけどいい話。

花子　床屋の飛行機乗り。決め技は必殺虎狩り。

雪子　敵機の翼をチョキチョキ。

花子　バリカン砲でそぎ落とす！

床屋　……（声をひそめ）おい。

花子　何？

床屋　そこ（個室Ｄをさし）。

雪子　どうかしたの？

床屋　誰かいる気配がするんだが、ずっと出てこない……大丈夫か？

花子　心配ないよ。

雪子　長いこと通ってるくせに病院のトイレのことは全然知らんのですね。トイレは入院患者の憩いの場なのです。

花子　一人部屋ならいいが、カーテン一枚で遮る相部屋暮らしでプライベートの空間といえばここぐらい。缶コーヒーや文庫本持ち込んで長居するのもいる。

床屋　足がしびれるだろ。

花子　座布団持参。

雪子　雪子はおっかないドクターに叱られたり、意地悪ナースにいじめられたとき、ここでひとり泣いておりまする。しくしく。

花子　嘘嘘。

雪子　真珠の涙を便器に流して、ザーッ、ゴボゴボッ。

花子　わしらはここを格納庫と呼んでおる。場所も決まっておる。

床屋　具合が悪くなったやつが倒れてたなんてことないのか。

花子　たまにある。そんなときはピンポン押す。ナース駆けつける。

雪子　雪子、パンツおろしたままで死にたくない。

床屋（個室Ｄの扉をさし）……バツがつけてあるぞ。

雪子　パンツがつけてある？

床屋　バツだ。ほら赤いバツ。
雪子　赤いパンツは巣鴨地蔵で。
花子　ほんと、バツだ。
床屋　こりゃ、口紅だな。
雪子　ルージュの伝言？
花子　鏡に書いたゴートゥーザヘル！
床屋　たたいてみるか？
花子　トントンとやればトントンがかえってくる。でもへそまがりだったり、忙しかったら返事はない。
床屋　何で忙しいんだよ。
花子　ここは仮にも男子トイレ。一人でエッチなことしてる可能性も。
雪子　花ちゃんたら、何と大胆な。
床屋　聞こえてるなら何か言うだろ。
雪子　入ってまーす。
床屋　ナース、呼ぶか？
花子　そこまで事を荒立てなくても。
雪子　花子隊長、モールス信号を送ったらいかがでしょう。
花子　グッドアイデア。雪ちゃんにはあとで金鵄勲章をあげよう。
床屋　おまえたち、モールス信号なんて知ってるのか？

花子、個室Ｄの扉をたたく。

花子　トンツーツー、トントントントン、ツーツー。
床屋　何だ、今の？
雪子　トンツーツーはＷ。トントントントンはＨ。ツーツーツーはＯ。ＷＨＯ。フー。
床屋　ふー？
雪子　誰？（首をかしげて）
床屋　だれ？（同じく）
花子　もう一回やってみよう。

花子、扉をたたく。「トンツーツー、トントントントン、ツーツーツー」すると、Ｄの扉でなくＣの扉から返

信がある。
「トントントン、ツー、トンツー、トンツートン」

花子　返信あり！
雪子　でも花ちゃん、（Ｃの扉をさし）そっちの扉からです。
花子　（Ｄをさし）こっちじゃないの？
床屋　おい、そこにも誰か入ってるんじゃないのか。
花子　雪ちゃん、聴きとれた？
雪子　トントントン、ツー、トンツー、トンツートン。
花子　トントントンはＳ、ツーはＴ、トンツーはＡ、トンツートンはＲ……ＳＴＡＲ。
雪子　ＳＴＡＲ……スター。
床屋　スター？
花子　スター。
床屋　にしきのあきらじゃないよな。

もう一度、返信がある。
「トントントン、ツー、トンツー、トンツートン」

雪子　花ちゃん、スターがいるの？
花子　知らない。

Ｃの扉、ゆっくり開く。出てきたのは燕尾服姿の男装の麗人。四十代。

雪子　は、花ちゃん！
花子　ゆ、雪ちゃん！（二人抱き合う）
床屋　た、宝塚かよ！
女　ごきげんよう。
雪子・花子（思わず）ごきげんよう。

男装の女、タップを踏む。
「トントントン、ツー、トンツー、トンツートン」

雪子（興奮）花ちゃん、すごーい！
花子　スターだ、スターだ！
雪子　月ちゃんに見せてやりたい。
床屋　宝塚が何で男子トイレに隠れてるんだ。
雪子　いいの、男役なんだから。
床屋　じゃなくて、どうして病院のトイレにいるんだ？
花子　空間のねじれが生じ、宝塚劇場のトイレと第七病棟のトイレがつながってしまったのである。
床屋　病院のスリッパ履いてるぞ。
雪子　それも黄金色のスリッパ。
花子・雪子　伝説のゴールドスリッパ！
床屋　一日三万円の差額ベッドの患者か。
花子　病人にしてはお肌の艶もいい。
雪子　雪子もつけまつげしてみたい。
床屋　こういっちゃ何だが、現役には見えん。おまえら、歳を聞いてみろ。
花子　タカラジェンヌに歳を聞くのはご法度でごんす。
雪子　専科かもしれないし。
床屋　モールス信号知ってるんだ。戦時中の教育受けてるかも。
花子　そこまでバアさんじゃない。
雪子　花ちゃん、違う。おジイさんよ。男役なんだもの。
床屋（女に）……あの。
女　ごきげんよう。
床屋　そこで何を……。
女　ごきげんよう。
雪子　あ……。
花子　どうした、雪ちゃん。
雪子　思い出しました。この人、月ちゃんが話してた特別室のヴァンパイアです。
床屋　ヴァンパイア？
雪子　月ちゃんはオオカミ族なので、吸血鬼とは敵対してるんですよ。
床屋　出張の床屋始めて三年になるが、こんな人、見たことないぞ。
花子　噂には聞いておったが、わしもお目に

かかるのは初めて。

雪子　病院の七不思議のひとつ。あとの六つは知らないけれど。

床屋（小声で）何の病気かな。

女　ごきげんよう。

雪子　おそらく。

花子　こっちの（頭をさして）。

床屋　くるくるぱーか？

雪子　くるくるぱーとか言わないの。

床屋　ナース、呼ぶか？

花子　そこまで事を荒立てなくても。ここはおとなしくお部屋に戻っていただいて。

花子、女を個室Cに戻す。

花子（女に）ごきげんよう。

扉をしめる。

花子、Vサイン。

と、個室Dから男の声がする。

「トイレに行きたい」

床屋　……何か言ったか？

雪子　言わないです。

花子　花子も。

床屋　今度は何だよ。

個室Dからの声。

「トイレに行きたい」

雪子（Dをさし）こっち。

床屋　何て？

花子　トイレに行きたい。

床屋　トイレに行きたい？

雪子　トイレにいるのに。

床屋　男の声だったな。

花子　ここは男子用トイレ。男がいるのはおかしくない。

床屋　のぞいてみろ。

花子　えーっ、わしらが！

雪子　オナニーしてたらどうすんの。
床屋　いいからのぞけ。俺が台になってやる。

床屋、四つん這いに。雪子と花子、床屋の背中に一斉に昇る。崩れる。

床屋　二人で乗るな！　軽い方が乗れ！
雪子　乙女の友情にひびが入るようなことをおっしゃるな。
床屋　どっちでもいいから！
雪子　じゃあ、花ちゃんどうぞ。
花子　お言葉に甘えて初登頂の栄誉を。
床屋　早く！
雪子　男を踏みつけにしてのしあがるの。

花子、個室Dの中をのぞく。

花子　……ああっ！
雪子　どうしたの？
床屋　倒れてるのか？
花子　こんちは……フラワーの子で花子といいます。花子といってもゾウでも女芸人でもトイレのお化けでも。
床屋　自己紹介なんていい！
花子　シルクハットさんがいるぞ。
床屋　何？
花子　シルクハットの変な人。花子がレントゲン室で目撃した人。
雪子　お巡りさんが連れてきた人？
花子　バスローブ着てるし。
雪子　そういえば、ドクターがトイレの個室に置いてきたって言ってた。
床屋　もう下りろ！

花子、下りる。

雪子（Dの扉をさして）花ちゃん、これ、アリババのバツ印。
花子　口紅なんだろ。何でドクターが口紅を持ってるんだ？

雪子　またひとつ謎が増えてしまった。
床屋　何だかさっぱりだ。
雪子　こういうときこそ月ちゃん、頼りになるのに。
床屋　開けなくていいのか？
花子　いいよ。帽子の変な人、ちょいと疲れて休んでいるのことよ。そのうちドクター、迎えに来るのことよ。

個室Ｄの扉、開く。男、便器に座ったまま。

床屋　……開いた。
雪子　キャー。（目を隠し）花ちゃん、目がつぶれたりしない？
花子　大丈夫。お尻出してないから。
床屋　何だよ、こいつ？
雪子　雪子は初めてお目にかかります……あら、『ワンピース』のチョッパーみたい。
花子　この帽子の中に床屋のハサミが入っているのだ。おまけにこの帽子が頭からとれないとくる。
床屋　ほんとか。
花子　何でも警察署の書道の達人が三人がかりでとろうとしたが、無理だったとか。
床屋　こいつもくるくるぱーか？
雪子　くるくるぱーとか言わないの。
花子　裸で町を歩いてたらしい。
床屋　……いったい何者だい？
花子　それがわかれば奉行、苦労はせぬ。
雪子　捜査は迷宮入りの様相を。
花子　月ちゃんはマジシャンではと言っておったが、花子は帽子屋ではないかと。マッドハッターｂｙ不思議の国のアリス。
雪子　雪子は床屋さんではないかと。
花子　何で？
雪子　だって床屋さんのハサミが。
花子　雪ちゃん、やだ。それって全然ひねりがないじゃん（体をひねって）。
床屋（ぽつりと）床屋だよ。

雪子・花子　え？
床屋　こいつ、床屋だ。
花子　またまた。
雪子　またまたまた。
床屋　同業者のにおいはわかる。
花子　おしっこくさい厠にいて、においがわかるもないもんだぜ、大将。
床屋　わかるんだよ。どんな商売のやつだって同じことをいうさ。同業者のにおいはわかる。（男の右手をつかんで）何たって、これが動かぬ証拠。
雪子　右手が左の腕にあるとか。
床屋　右手の薬指の第二関節の上にタコがある。これはハサミのタコだ。（薬指を見せ）ほら、同じところにあるだろ。
花子　どれどれ。
雪子　どれどれどれ。
花子　うわあ、こそぎ落としたい。
床屋　よせったら！
雪子　花ちゃん、大、大、大スクープ。お巡りさんに教えてあげよ。
花子　床屋のおっちゃんに聞いたことは内緒で、わしらの手柄にするのだ。
雪子　金一封金一封。
床屋　こいつ、何かしたのか？
花子　だから裸で町を歩いてたって。
床屋　どうして？
雪子　それを調べてるの。それで帽子をレントゲンで撮ったの。でも、おっちゃんのおかげで謎がひとつ解けました。帽子の中のハサミはこの人のもの。
床屋　何でここにいるんだ？
雪子　先ほどからの仰せの通り。トイレに行きたかったんでげしょ。
花子　トイレは憲法で保証された基本的人権である。
雪子　人権であーる。
花子　とりあえずドクターに連絡？
雪子　また変態攻撃、受けないかしら。
床屋　……いや、ダメだ。

雪子　ダメって？

床屋　よくわからんが、こいつは俺が助ける。官憲の手には渡さない。

雪子　あのお巡りさん、官憲というほど偉くはないかと思われまするが。

花子　助けるって、どうして？

床屋　こいつが床屋だからだ。

雪子・花子　床屋だから？

床屋　大日本理容組合員法、第一条。組合員の相互扶助。組合員は兄弟である組合員が危機に瀕したとき、たとえ散髪途中であってもその救助を優先すべし。

花子　兄弟！

雪子　ブラザー！

花子　かっこいいなあ、マフィアみたい。

雪子　フリーメーソン。

花子　で、どうやって助けるの？

床屋　どこかへ移すか。

花子　まずそのバツを消さなきゃ。

床屋　（こする）ダメだ……消えない。

雪子　雪子がいい方法を教えよう。バツを描くのだ、他の扉にも。そうすれば、どれがどれだかわからなくなるなり。アリババの召使の女の子がそうやって盗賊をだまくらかしたのです。ｂｙ千夜一夜物語。

花子　雪ちゃん、グッドアイデア。レジオンドヌール勲章を授けよう。

雪子　でも口紅がないです。

花子　病棟では口紅はご禁制の品。

雪子　入院患者は持っておりませぬ。

床屋、ポケットから口紅を出す。

雪子　あ、口紅。ディオールの高いやつ。

花子　何でむさくるしい中年男がリップスティックを携帯してるんだ！

雪子　おっちゃんは紅（くれない）の豚でなくて紅（べに）の豚？

花子　変態ドクターといい、日本の中年男の考えてることはわからん。

雪子　花ちゃん、実は二人とも女装が趣味なのではないでしょうか。

花子　なるほど、かなり気持ち悪い。

床屋　ばあさんの整髪してやったあと、ちょっとだけ塗ってやるんだ。理容の仕事じゃねえが、鏡を見せるとな、すごく喜ぶ。ばあさんだって女なんだ。いくつになっても女だ。少々ボケてきたばあさんが、そのときだけすごくうれしそうな顔をする。どうせすぐ介護士に拭きとられちまうけれど、それまでのわずかな間、楽しんでもらえたらって。

花子　……おっちゃん、いい人なんだな。田中康夫みたいだ。

雪子　雪子、そういう話にすごく弱いの。

床屋　こいつをこうやって（個室Ｃの扉にバツ印をつける）……。

続いてＡ、Ｂの扉にもバツ。

床屋　よし。おまえら、これをこのあたりのトイレの個室にもつけてきてくれ。

花子　合点！

雪子　承知之助！

花子　では特殊任務を果たすべく、花子小隊、出撃します。

雪子　雪子小隊も出撃します。

床屋　（口紅を雪子に渡す）俺もあとからいく。君たちだけを死なせはしない。

雪子　余ったら、これ雪子にちょうだい。

床屋　やるよ。

雪子　では花ちゃん。

花子　攻撃目標、第八病棟の男子トイレ。

雪子・花子　出撃！

雪子と花子、飛行機の恰好で退場。

床屋　……誰かくる。

床屋、男のいる個室Ｄの扉を閉め、

自らは個室Ｂに隠れる。
月子が入ってくる。

月子　くんくん。花ちゃんのにおいも雪ちゃんのにおいもしないなあ……あ、気持ち悪。

月子、個室Ａにかけこむ。
警察官と看護婦が入ってくる。

警察官　少し休みましょうか。
看護婦　はい。
警察官　ここでいくつ目？
看護婦　十三か所目です。
警察官　お遍路さんみたいですね。
看護婦　え？
警察官　四国の霊場巡り。
看護婦　冗談でなく、八十八か所回らなきゃならなくなりますよ。
警察官　先生、大丈夫ですか？
看護婦　ミスターが一緒だから。
警察官　……チルチルとミチル。
看護婦　チルチル？　青い鳥の？
警察官　僕ら（笑）。
看護婦　それって面白い（笑）。
警察官　よかったです。今日、ここへ来れて。何で自分が面倒なこと押しつけられるんだって思ってたけど。
看護婦　……私も。

二人、近づく。
看護婦、急にあたりをうかがう。

警察官　どうしたんですか？
看護婦　何だか月ちゃんの気配が……ここ、あの子たちの病棟だし。
警察官　……あ。
看護婦　やっぱりいました？
警察官　あれ（個室Ａの扉をさす）。
看護婦　あった！　あれですよ！
警察官　あれ？

看護婦　違うんですか？

警察官　こっちにも（Ｂをさし）……こっちもだ（Ｃをさし）。

看護婦　どういうこと？

警察官　先生がつけたのは一箇所のはず……これは誰かが、本物をわからなくするためにつけたんです。

看護婦　きっと、あの子たちよ。先生が扉にバツ印つけたこと聞いてたもの。

警察官　ここだけではないかも。

看護婦　先生が追い出しちゃったから。

警察官　一つひとつ虱潰しですね。

看護婦　ここにいる可能性あるんですか？

警察官　消してしまう方が簡単なのにそうしなかったのは、消せなかったからです。

看護婦、Ａをノックする。返事なし。開ける。いるはずの月子がいない。続いて床屋の入った個室Ｂをノック。返事なし。開ける。床屋がいるはずが、いない。

「ごきげんよう」という女の声。

看護婦　何か言いました？

警察官、首を横にふる。

看護婦、帽子の男がいるはずのＣの扉を開ける。

看護婦　いました！

そこにいたのは男ではなくＤにいたはずの女。しかも燕尾服姿でなく男の着ていたバスローブ。そして頭にはシルクハットをかぶっている。

女　ごきげんよう。

看護婦　あなたは……。

警察官、Ｄの扉を開ける。中には誰

もいない。
暗転。

4

診察室。
女、椅子に座っている。

医師　妻です。
警察官　え？
医師　女房です。嫁です。配偶者。ワイフ。
家内……僕の奥さん。
警察官　先生の奥様！
医師　僕の患者でもあります。
警察官　入院してるんですか？
医師　ここに勤めているのは妻のためです。
差額ベッド代負けてもらってるし。
警察官　そばにいてやりたいと……。
医師　そのつもりだったが、なかなか会えなくて……久しぶりです。
ミスターX（警察官に小声で）迷って部屋までたどりつけないんだ。
医師　しばらく見ないうちに、ずいぶんとようすが変わって（笑）。
警察官　先生、このバスローブは……。
医師　わかってます。あの男の、いや、あなたの同僚のです。帽子も……あの帽子だ。
警察官　スパイクは履いてません……派手なスリッパだな。
ミスターX　ゴールドスリッパだ。最高額の特別室の患者用。
警察官　あいつ、奥様の服を奪って……。
ミスターX　そんなことできるか？　自分のこともよくわからんやつに。
警察官　記憶喪失を装って逃げる機会を狙っていたかも。だったら相当な演技派だ……
（医師に）奥様は普段どのような服装でしたか？　パジャマですか？
医師　大体いつも燕尾服。
警察官　え？

医師　燕尾服。知りませんか？
警察官　燕尾服って、あの……。
医師　妻は宝塚にいました。星組に。
警察官　宝塚！
医師　男役です。トップではないですが。
ミスターX　それで男子トイレか……でも特別室には専用のトイレがついてるんじゃないんですか？
医師　それは（口ごもる）……わからない。

医師、女（妻）に近づき、顔を覗き込む。反応なし。

警察官（ミスターXに）あいつ、燕尾服で病院の中をうろうろしてるのか……さすがに燕尾服着てる人はほかにはいないだろ。
ミスターX　そうでもない。
警察官　いるの！
ミスターX　二日ばかり前、クモ膜下出血で運びこまれたじいさんの頭を撮ったんだが、そのじいさん、燕尾服着てた。
警察官　何者？
ミスターX　マジシャンだって。
警察官　マジシャンか……。
ミスターX　マジックショーの出番前に劇場の地下の理容室にいったらしい。そこで急にガーンときて。
警察官　散髪中に倒れた。
ミスターX　馬鹿熱いタオルでも顔にのせられたか……でもこれとは関係ないだろ？
警察官　帽子の中に写ってた例の。
ミスターX　床屋のハサミ？　月子のいうことだから、あんまりあてには。
警察官　実はあの男はマジシャンじゃないかと思ってた。
ミスターX　シルクハットかぶってたから？　あいつのと決まったわけじゃないし。
警察官　じいさん、シルクハットは？
ミスターX　なかったよ、そんなもの。
警察官　今、どうしてるの？

ミスターX　ＩＣＵにはいるが、結構な歳だし、時間の問題だろ。

医師　（帽子にふれ）とれませんね。

警察官（医師に）自分もやってみましたが。

ミスターX（警察官に）　でもさ、あいつの頭からはとれたってことだぜ。

警察官　そうだよな。

医師　しっかりくっついてる。

警察官　困りましたね。

医師　嫌がってはいませんよ。こういうのを舞台でかぶっていたから（笑）。

看護婦、雪子と花子を連れてくる。

雪子　ああっ！　帽子の人、つかまっちゃったんだ。

花子　……違うよ、雪ちゃん。この人。

雪子　え？　あっ！

雪子・花子　スターだ！

花子　スターがどうしてこんなの着てるの？

雪子　シルクハットはお似合いです。

警察官　君たち、先生の奥様をどこで見たの？

花子　先生のって？　この人、ドクターの奥さん！

雪子　衝撃の事実。特別室のヴァンパイアは変態ドクターの奥さんだった……月ちゃんきっと驚く。あっと驚く。

警察官　正直に答えなさい。

雪子　お巡りさん、怖ーい。まるでお巡りさんみたい。

花子　わしら、何も悪いことはしておりません。無実です。冤罪少女です。

看護婦　あなたたち、第八病棟のトイレの扉にバツつけてたんでしょ。

雪子　それは床屋のおっちゃんに頼まれ……。

花子　雪ちゃん。

雪子　ごめん、花ちゃん。雪子、根性無しだからゲロしちゃう。ジャンバルジャン雪子は、わずかばかりの口紅の残りがほしくて

罪を犯しました。レ・ミゼラブル。

警察官　床屋のおっちゃん？

ミスターX　病棟へ出張してくる床屋のことだろ。

花子　床屋のハサミのことを教えてもらおうと、トイレで待ち伏せしてたら。

警察官　いたんだね。

花子　なぜか知らねどタカラジェンヌ。

雪子　男役ゆえ男子トイレに。

ミスターX　やっぱり。

雪子　扉越しに送った花ちゃんのモールス信号に応えて、トントントン、ツー、ツー、トンツー、トンツー、トン。

ミスターX　何だ？

警察官　S、T、A、R。

看護婦　STAR。スター？

医師　スター……。

警察官　モールス信号知ってるんだ。

花子　わしら、ベッドに入ってるときはモールス信号でおしゃべりする。

雪子　手すりをコンコンやるのでナースにうるさいって怒られまする。

看護婦　帽子の人もそこにいたんでしょ？

花子　おりました。花子はレントゲン室で目撃していたから先刻承知。

雪子　トイレに行きたいって言ったのです。トイレにいるのに。変なの。

警察官　それから？

花子　床屋のおっちゃんが、ブラザーを官憲の手には渡さないって。床屋組合の血の掟にそういうのがあるんだって。

雪子　フリーメーソン。

ミスターX　何だ、ブラザーって。

花子　お巡りさん、とっておきのネタを提供するからわしらと司法取引して。実は何と、あの帽子の変な人は床屋さんなのだ。

花子と雪子以外、一斉に「えーっ」と声を上げる。

雪子　オシッコくさいトイレでも、床屋さんは床屋さんと同じにおいがするのです。しかし、証拠はそれだけではありませぬ。右腕についてる右手の薬指。その第二関節に、何とタコがあったのです！

ミスターX　ハサミのタコ？　ほんとか？

警察官　あいつ、床屋なのか。

ミスターX（警察官に）おい、それじゃ……。

警察官　おっちゃんは、今どこ？

花子　第七の男子トイレにいないの？

雪子　帽子の人をどこかにかくまってるんじゃないでしょうか。

看護婦　かくまうって、どこへ？

花子　それは知らん。

警察官　別のトイレに潜んでいるかも。

ミスターX　すぐ見つかるよ。

雪子　なして宝塚のスターがバスローブ着てお帽子かぶってるの？　お洋服、交換したの？　王子と乞食ごっこ？

花子　オトコヤクとトコヤごっこ（言いにくい。何度も言ってみる）。

看護婦　先生。

医師（唸る）うーん。

雪子　それよりたいへんなんです。

花子　月ちゃんがいないのだ。

ミスターX　一緒じゃないのか。

雪子　月ちゃん、微熱があって部屋でしばらく待機、もとい駐機していたのです。

花子　その後わしらをさがしにベッドを離陸したらしいのだが、行方知れずに。

雪子　月ちゃん専用の格納庫にもおらず。

ミスターX　格納庫？

看護婦　お気に入りのトイレの個室。

花子　お巡りさん、月ちゃんが行方不明なので、わしら正式に失踪届を提出し、捜索を依頼する。どうかよろしく。

ミスターX　どこかに隠れてるよ。

雪子　心あたりはすべて回ったのですが、お月さまの影も形も、よよっ（泣き真似）。

医師　……ミスター。

ミスターX　はい。
医師　妻のレントゲンを撮ってきてくれんか。ここのところを。
ミスターX　また帽子の中？
医師　オカルトめいてきたが、この帽子は尋常な代物じゃなさそうだ。床屋らしき男の頭から妻の頭に乗り換えたが、それだけで済みそうもない。
ミスターX　わかりました。

ミスターX、女を連れて退場。

花子（二人を見送って）やれおいたわしや、マリーアントワネット様。
雪子　ドナドナの仔牛さん。
看護婦　先生、これって一体。
医師　どうなってることやら皆目（笑）。
警察官　すみません。あんな男を連れて来たばかりに奥様にまでご迷惑を。
医師　それはしかたない……妻があんな風になってもう何年にもなるが、僕は治療のめどさえたてることができないでいる。
警察官　奥様はどんな。
医師　……。
警察官　すみません。余計なことを。
医師　……妻とは神戸の伯母の紹介で知り合ったんです。伯母が宝塚の熱烈なファンだったんで。退団してすぐに結婚したのだが、なかなか子供ができず、妻はそれを苦にしていた。僕は、「しょうがないよ、君は男役だったんだから」なんて慰めたが。
看護婦　それ、慰めになってません。
医師　僕ってデリカシーないね。精神科医なのに。傷つけていたかもしれない。精神科医なのに。傷つけていたかもしれない。それが結婚して十年目にやっと……でもダメだった。妻はひどく落ち込んで。それからです。精神に変調をきたしたのは。髪を短くして家の中でも燕尾服を着るようになった。まるで男役の時代に戻ったみたいに振舞いだした……そしてある日、娘役をやれ

と言いだして。

警察官　え？

医師　娘役をやれと。この僕に（笑）。

警察官　先生にですか！

医師　逆らえなかった。

花子　それでむさくるしい中年男のドクターが口紅なんか持ってたんだ。

医師　妻は僕の唇に、たっぷり時間をかけて口紅を塗る。それが済むと自分の唇にも。だが自分に塗るとき鏡を見ない。妻は鏡を怖がっていた。それであてずっぽうに塗りたくるから、それはもう子供のいたずらみたいに口の周りが真っ赤になって。

雪子　ヴァンパイア。

医師　最初は宝塚時代以降の記憶がどんどんなくなっていった。しまいには僕が誰かもわからなくなった。発する言葉もどんどん少なくなり、とうとう……。

花子　ごきげんよう。

医師　今ではそれだけ。

警察官　治らないんですか？

医師　いろいろ試してみたのだが。

雪子　あの、月ちゃんが……。

看護婦　病棟のナースに頼んで捜してあげるから。

雪子　月ちゃんに聞いたことがあるのです。月ちゃんが入院したばかりのこと。月ちゃんは燕尾服の人に特別室に誘われたのです。「お嬢ちゃん、遊びにいらっしゃい」って。月ちゃんはジュースやお菓子をもらったりしたのですが、突然その人がシャツの前をはだけたのです。月ちゃんはてっきり男の人かと思っていたのにオッパイがあったのでびっくり仰天。そしてその人、「オッパイ、飲んでいいのよ」って。それから月ちゃんの顔を無理矢理、胸に押しつけようとして……。

看護婦　雪ちゃん、もうやめて！

医師　いいんだ。

雪子（小声で）月ちゃん、それをふりきって

逃げ出して……。

医師　そんなことがあったのか。

警察官　先生、現場にいたおっちゃんとかいう出張床屋ですが、奥様の髪も……。

看護婦　顔なじみだった？

医師　それはない。妻は髪を短くしていたが、床屋には世話になりません。

看護婦　ご自分で？

医師　必要ないんだ。妻の髪は伸びないから。あるときから全く伸びなくなった。

看護婦　……。

雪子　髪の毛には記憶がつまってるって月ちゃんが言ってました。髪の毛の一本一本にいろんな記憶がつまってる。日本人の髪の毛は十万本だから全部で十万の思い出があるの。それを切っちゃえば思い出は消えてしまうって。でも、ちょっとずつだからみんな気づかない。いっぺんに抜けちゃったりすると、それに気づくんだって。雪子はお馬鹿さんだからあまり気づかないけど、月ちゃんは感じてるみたい。

医師　……なるほど。

警察官　ミスターバツがさっき……。

医師　ミスターが何？

警察官　燕尾服のことで気になることを。二日前に脳卒中の老人が運ばれてきたそうです。その老人が燕尾服を着ていた。マジシャンだそうで、マジックショーの出演前に散髪に行き、そこで倒れたそうです。

看護婦　それって……。

警察官　劇場の地下の理容室で。

医師　あなたは、もしかして。

警察官　その老人を散髪した床屋があの男ではないかと。

医師　なぜ、言いきれる？

警察官　シルクハットです。老人はマジシャンです。ショーの直前ですから、それを店まで持っていった可能性があります。

花子　かぶったんだ。

警察官　そう。

看護婦　あの人が？

花子　だって、お客が救急車で運ばれて帽子だけ残されたんだ。あんなのが置いてあれば気になってしょうがない。それでちょっとかぶってみようかなと。

雪子　シルクハットなんて、なかなかかぶる機会はありませぬ。

花子　帽子は床屋さんの敵だし。

雪子　床屋さんには大きな鏡があるし。

花子　それに写して、英国紳士を気取ってみたのだ（かぶるしぐさ）。

雪子　ジェントルマン。

看護婦　それから服を脱いで町を歩いたってわけ？

警察官　先生、あの帽子がベテランマジシャンのものだったら、少々不思議なことが起こってもおかしくないのでは。

医師　医師の立場では軽々に認めてはならない話なんだが。

看護婦（警察官に）つまり帽子が床屋さんを操り、裸で徘徊させたっていうの？

警察官　裸にさせたのは、病院へ連れてくるためではないでしょうか。帽子は持ち主である老人のところへ戻りたかった。そのために床屋の頭を借りた、いや乗っ取ったのです。裸で外をうろつきまわれば必ず警察に捕まる。警察で精神の病を疑われ、そのまま病院へ連れて行かれると。

看護婦　帽子がそんなことを……。

花子　マジシャンの帽子だもの。

雪子　それも相当年季もの。

花子　付喪神だぞえ。

医師　頭から離れなかったのはそのせいか。

警察官　思惑通りに事が運び、病院へたどりついた。そのまま老人のもとへ行きたかったが、途中邪魔が入った……。

ミスター×、女と戻ってくる。

医師　撮れたかい？

ミスターX　ええ……これです（フィルムを渡す）。
医師　……（フィルムを見て）これは。
警察官　ハサミが二本になってる。
看護婦　二本！
ミスターX　ますます厄介なことになっているようですね。

雪子と花子、間に割り込み、のぞく。

花子　このハサミ、床屋のおっちゃんのもりぶでんである。
看護婦　もりぶでん？
ミスターX　ハサミの素材だろ。
花子　おっちゃんがトイレで研いでたやつ。この形に間違いない。
雪子　あずきとぎましょか。
警察官　どういうことなんだ。
ミスターX　それとここ（フィルムを指さす）。
雪子　花ちゃん、これって！
花子　骨盤だ！
医師　……骨盤だな。
看護婦　帽子の中に骨盤！
雪子　ライク・ア・バージン雪子の？
ミスターX　いや、これは月子のだ。
雪子　月ちゃんの骨盤がなじょしてここに写ってるの？
ミスターX　知るか！
花子　よく月ちゃんのとわかるな。
ミスターX　オタクをあなどるな。
雪子（小声で）月ちゃんのと雪子のと、バツはどっちがお好み？
警察官　……いるんだ。
雪子　何が？
警察官　この中に。
花子　だから何が？
警察官　月ちゃんが。
雪子　月ちゃんがこの中にいるの！
警察官　おっちゃんとかいう床屋と、それからいなくなったあの男も。

花子　あの人も床屋なんですぞ。
看護婦　帽子の中にって、どういうこと？
医師　そういうことか（女に近づき）。
看護婦　先生。
医師　こうなるともう医学の出番じゃないな（笑）。宗教家か？　物理学者か？　ミスターマリックにでも頼むか。
雪子　ハンドパワーです。
医師（聴診器を帽子にあて）何も聞こえんが。

と、やにわに女が立つ。

ミスターX　どうしたんだ？

女、タップを踏む。
「トントントン、ツーツーツー、トントントン」

花子　あっ！
警察官　ＳＯＳだ。
雪子　月ちゃんです！　月ちゃんからのＳＯＳです！

女、繰り返す。
「トントントン、ツーツーツー、トントントン」
さらに繰り返す。
「トントントン、ツーツーツー、トントントン」
医師が止めようとする。勢いあまって二人、転倒。

看護婦（助け起こし）先生。
医師　大丈夫だ。
花子（警察官に）助けてって。
警察官　月ちゃんに返信しよう。
花子　何て？
警察官　どこにいるかって。
雪子　聞こえる？
警察官　やってみようよ。

花子と雪子、女の両側に立つ。口ずさみながらステップを踏む。

「トンツーツー、トントントントン、トン、トンツートトン、トン」

ミスターX　何だ？

警察官　W、H、E、R、E。

看護婦　WHERE。ウェア、どこ……。

警察官（二人に）もう一度。

二人、繰り返す。

「トンツーツー、トントントントン、トン、トンツートトン、トン」

警察官が付け足す。

「トントンツーツートントン」

ミスターX（花子に）今のは？

花子　これ（？のマークを宙に書く）。

雪子　クエスチョン。

全員、耳をそばだてる。

ミスターX　ダメか……。

警察官　もう一度！

花子、雪子、ステップ。

「トンツーツー、トントントントン、トン、トンツートトン、トン」

間。

雪子　月ちゃん。

花子　答えて！

花子、雪子、ステップ。

「トントンツーツートントン」

間。

雪子　月ちゃん、帽子の中で溶けちゃったんじゃないでしょうか。

花子　雪ちゃんの馬鹿っ！（ひっぱたく）

雪子　花ちゃん、痛いよー。（泣く）

女、ゆっくり立ちあがる。

ミスターX　また始まるぞ。

一語ずつ、間を置きステップ。

「ツートントン」

警察官　……D。

「トンツートン」

花子　R。

「トン」

雪子　E。

「トンツー」

警察官　A。

「ツーツー」

雪子・花子　M。

女、続けてステップを踏む。

「ツートントン、トンツートトン、トン、トンツー、ツーツー」

女、座る。

警察官　D、R、E、A、M。

看護婦　DREAM。ドリーム。

花子　ドリーム？

雪子　ドリーム？

ミスターX　ドリームって、ドリーム・カムトゥルーのドリームか？

看護婦　夢の中ってこと？

ミスターＸ　帽子の中じゃないのか。
花子　帽子の中が夢の中。
雪子　無我夢中。
医師　……誰の夢の中か。
警察官　先生。
医師　花子のいう通り、帽子の中が夢の中だ。帽子は夢の入れ物、器なんだ。月子と床屋は誰かの夢の中にいるらしい。
ミスターＸ　それは帽子の持ち主の……。
全員（医師を除く）マジシャン。
医師　ＩＣＵで生死の境をさ迷っている老人の、いや、確実に死に向かってカウントダウンしている老人の夢の中か……医学に携わる者として、こんな非科学的な話を認めるのは慙愧に堪えないんだが。
警察官　どうなるんでしょう。
医師　老人はじきに死ぬ。死ねばもう夢を見ない。夢が終わったら、月子たちはそこから解放されるはず。
雪子　月ちゃん、助かる？
医師　だがこうも考えられる。死が、死とは永遠に夢見ることだとしたら。
警察官　永遠に囚われの……。
雪子　えーっ！
花子（女に近寄り）月ちゃんはここにいるんだ。こいつを、こんなお化け帽子、切り裂いてやる。月ちゃんはここに……。
ミスターＸ（花子を抱きとめ）よせ！　わからんのか。ここに月子たちの実体はないんだ。ここにあるのは、何というか、魂みたいなもんだ。今こいつを壊せば、拠り所がなくなってみんな戻れなくなる。
花子（泣き声で）だったらＩＣＵへ行く。マジシャンのジジイをたたき起こす！
雪子　花ちゃーん（泣く）。
看護婦　どうして帽子は先生の奥様の頭に移ったのかしら。
警察官　え？
看護婦　帽子は主人であるマジシャンのところへ戻ろうとした。なのにここにいる……

間違ったんじゃないのかしら。

ミスターX　間違った？

看護婦　先生の奥様は燕尾服を着ていた。マジシャンと同じ燕尾服。

医師　男子トイレの中で、帽子は主人の頭に戻ったつもりでいた。ところがそれは妻の頭だった。帽子はあわてた。その拍子に西遊記の魔法の瓢箪よろしく、床屋も月子も吸い込んだ。

花子　月ちゃん、かわいそう。骨髄移植できそうっていってたのに。

雪子　月ちゃん、かわいそう。キッスもエッチもまだなのに。

看護婦　大丈夫よ。

ミスターX　俺、ＩＣＵのぞいてきます。

ミスター×、退場。

警察官　何か手がないか……。

医師　帽子があの男の頭にとりついて、あの男の記憶を奪った。今は妻の頭にとりついているが、妻には奪うべき記憶がない。帽子はさぞかし驚いているだろう。

女、また立ちあがる。

医師　どうした？

警察官　月ちゃんからかも。

女、ステップを踏む。

「ツートントントン」

花子　Ｂ。

「トンツー」

雪子　Ａ。

「ツートントントン」

花子　B。

「ツートンツーツー」

雪子　Y。

警察官　B、A、B、Y。

看護婦　BABY……ベイビー？

花子　ベイビー？

雪子　赤ちゃん？

医師　そこに赤ん坊がいるのか？

女、うなずく。

看護婦　先生……。

医師　老人じゃない。

警察官　え？

医師　マジシャンの、老人の夢なんかじゃない。これは妻の夢だ。月子たちは妻の夢の中にいる。

突然、帽子が膨れてくる。

雪子　見て！　帽子が！

花子　膨れてる！

さらに膨れる。

雪子　おなかパンパン。

花子　風船爆弾。

警察官　夢が、夢が暴走を始めたんだ。

ますます膨れる。一同、右往左往。

ミスター×、戻ってくる。

ミスターX　じいさん、今、息を引き取った……（膨れた帽子を見て）何だこりゃ！

医師　メルトダウンだ。夢が自らを制御できなくなったんだ。

ミスターX　原発かよ！

花子　水素爆発。

看護婦　みんな姿勢を低くして！
警察官（医師をおさえて）先生！
医師　妻が……。

爆発音と同時に暗転。

5

診察室。看護婦が一人。

花子（そっと忍びより）こらっ！
看護婦　……ああ、びっくりした。
花子　何ものおもいにふけっているのだ。お巡りさんのことでも考えていたのか？
看護婦　何言ってんの。
花子　さては図星だな。
看護婦　知りません。
花子　結局、キスしなかったの？
看護婦　……ふふっ。
花子　あれ？　何だ、その含み笑いは？
看護婦　教えない。
花子　くそっ、悔しいなあ。
看護婦　月ちゃん、どう？
花子　元気元気。前より調子いいくらい。
看護婦　月ちゃん、第八病棟のトイレにいたんでしょ。
花子　わしらがバツ印をつけたところ。隣の個室には床屋のおっちゃんが失神しておった。そのまた隣には、燕尾服着た帽子の人がひっくりかえっておった。
看護婦　第七のトイレにいたはずが、気がついたら第八にいたなんて不思議ね。
花子　瞬間移動。テレポーテーションだ。
看護婦　気を失っただけで、みんな無事でよかったわ。
花子　帽子の人、くるくるぱーは治った？
看護婦　くるくるぱーとか言わないの。すっかり元通り。でも、帽子をかぶってからのことは全く覚えてないって。

花子　床屋のおっちゃんは便器に頭ぶつけて瘤をつくっただけだが、自慢のモリブデンが見つからなくて泣いておったわ。
看護婦　災難だったわね。
花子　ドクターは？
看護婦　特別室の奥様をみてくるって出かけたけど。ちゃんと着いたかしら。

雪子と月子、一緒に。

雪子　やっほー、花ちゃん来てたの？
看護婦　月ちゃん、もう平気？
月子　へいきへいき、秘密兵器。
花子　皆の衆、聞いとくれ……ナースは密かにお巡りさんとキスしたみたいだぞ。
雪子　（芝居掛かって）ええっ、どさくさに紛れてこの子は何てことをしておくれだい。
月子　してないよ。
花子　それが以前みたいに否定しないのだ。そいでもって、大人の女の余裕をちらちら見せつけておる。
雪子　いいなあ、キッス。雪子、お巡りさん、タイプだったのに。
月子　ほんとにしたんだ。
花子　知らんぞよ。子供ができるぞよ。
看護婦　できません。
雪子　男の子がいいです。
花子　ちんちん鉄砲つけて生れてくるのだ。
看護婦　（月子に）いたの、中に？
月子　……最初は遠くから赤ん坊の泣き声が聞こえてきた。それがだんだん大きくなって。ああ、近づいてくる……気がついたら、月子の腕の中に真っ裸の赤ん坊がいたんだ。やわらかくてすべすべして気持ちいいんだが、しっかり抱いていないと落ちてしまいそうで。月子には弟も妹もいないから、赤ちゃんなんて抱くの初めてだし。もうおろおろして……そのうち赤ちゃんが胸のあたりに顔を寄せてきて。ああ、これはオッパイが飲みたいんだなってわかったの

だけれど、月子はペチャだし、お乳も出ないし、困ったなあって思ってるうちに赤ん坊がだんだん。

花子　だんだん？

月子　だんだん小さくなって、縮んでいくんだ。月子はこわくなって、でもどうしようもなくて、赤ん坊が服にとまった蝉みたいに小さくなって、そして……。

雪子　そして？

月子　……どかーん。

間。

看護婦　月ちゃん、それ、先生の奥さんの夢の中なんだって。

月子　うん、聞いた。あれ、奥さんの赤ちゃんだったのかな。

看護婦　先生の奥さん、昔流産しちゃったの……この病院で。

雪子　もしかしてトイレで。

看護婦　……。

花子　ＢＡＢＹって発信したの、月ちゃん？

月子　違う違う。

看護婦　そうなんだ。

月子　……それと、飛行帽かぶったきれいな女の人がいた。

雪子　飛行帽？

花子　飛行機乗り？

看護婦　誰なの？

月子　調査の結果、宝塚最大のスター、元雪組組長、春日野八千代様と判明せり。

花子　よっちゃん先生だ。

雪子　うわっ、いきなり大物！

花子　白薔薇のプリンス。永遠の二枚目。

雪子　すごーい、すごすぎる。

花子　宝塚劇団の名誉理事。本名石井吉子。一九一五年生れ。二〇十二年没。

雪子　合掌。

看護婦　タカラジェンヌが飛行帽？

月子　太平洋戦争末期、一九四四年の公演『翼

の決戦』で、春日野八千代様は戦闘機の操縦士の役で飛行帽をかぶっていた。

花子　戦意高揚。

雪子　鬼畜米英。

月子　この公演をもって宝塚劇場は閉鎖。海軍に接収され、予科練の雨天体操場となった。しかし、月子と同い年の少年兵たちに乗るべき飛行機はなかったのである。

花子　春日野先生の飛行機乗り姿、さぞや凛々しかったことでありましょう。

雪子　雪子、春日野先生の部下になってお仕えしたかったす。

看護婦　つばさのけっせん？

月子　翼の決戦。

看護婦　それって戦時中の公演なんでしょ。奥様は知っていたのかしら。

月子　ドクターの奥さん、くるくるぱーは治りそう？

看護婦　くるくるぱーとか言わないの。髪が急に伸び出したみたい。一緒に記憶が戻ってくれればいいのだけど。

月子　いいなあ。月子はまだ高校球児だ。

看護婦　じきに元に戻るわよ。

花子　月ちゃん、とっておきのネタを提供しよう。床屋のおっちゃんだが、実はあの頭はヅラだったのだ。

雪子　雪子、それ知らない。いつカミングアウトしたの？

花子　おっちゃん、第八のトイレの個室で気絶しておったのだが、バツが助け起こしたときカツラがずれておったらしい。バツには口止めしたらしいが、あの口軽男が黙っておられるはずもなく。

月子　床屋だって禿げるだろ。

雪子　医者の不養生。

花子　看板に偽りあり。

看護婦　ダメよ、言いふらしちゃ。

医師、戻ってくる。

看護婦　お帰りなさい。ちゃんと奥様のお部屋に行けました？

医師　何とかね。で、考えたんだが、今度から迷わないように毛糸玉を転がしておくというのはどうだろう。古典的だが。

花子　ラビュリントス。

雪子　アリアドネー。

看護婦　それを伝わっていくんですか？　清掃係からクレームがきます。

医師　そうか……おい月子、具合はどうだ？

月子　大丈夫。熱もないから計らんでいい。

雪子　パンツ脱がない。

月子　奥さん、髪が伸びてきたんだって。

医師　ああ、急にな。まだ記憶の方はなかなかだが、回復の兆しはある。

花子　あの爆発がショック療法になったのだ。

医師　ごきげんよう。

看護婦　え？

医師　あいつ、「ごきげんよう」とだけ言えるだろ。今日、じっくり聞いてみたんだ。そしたら、どうも違って聞こえるんだ。

雪子　宝塚のご挨拶じゃないの？

医師　ごきげんようじゃなく、僕にはねんねんようって聞こえる。

花子　ねんねんよう。

雪子　おころりよう。

看護婦　先生……。

雪子と花子、「ごきげんよう」が「ねんねんよう」に聞こえるか何度も試している。

医師　失くした赤ん坊のことは、あいつには忘れたい記憶であって同時に忘れたくない記憶だ。忘れたい、忘れたくない、そのせめぎ合いがいつか、何もかも忘れてしまえということになったのかも。でも夢の中へ月子たちが入ってきたことで、彼女の中で何かが変わるのかもしれん。

間。

看護婦　トイレに行きたい。

医師　ああ？

看護婦　あの人、ほんとに「トイレに行きたい」っていってたんでしょうか？

花子　花子にはそう聞こえたぞ。

雪子　雪子にも聞こえました。

看護婦　そう思い込んでいただけかも……。

医師　ほんとは違うのかも知れんな。

雪子　トイレじゃないの？　じゃあ、どこに行きたかったの？

看護婦　それは……わからないけど。

医師　遠くに行きたい。

看護婦　え？

医師　まさかな（笑）。

間。

月子　ところで床屋のハサミ、どこへいっちゃったんだろ。

雪子　二本とも見つからないっす。

花子　まだドクターの奥さんの夢の中かな。

月子　あれって、海賊旗の髑髏の下にあるぶっちがいの骨みたいだ。

雪子　一説には、あの骨は男性のシンボルといわれております。

花子　（両手の人差し指で十字をつくり、二人の前に掲げる）違う、これだ！

雪子　それ、吸血鬼除けのおまじない？

月子　ドクターの奥さんはヴァンパイアじゃなかったんだぞ。

花子　第七航空隊の隊員のくせに、これがわからぬか。

月子　退院はしたいが。

花子　四枚だ、四枚。

雪子　四葉のクローバー？

月子　わかった、四枚ブレード。

雪子　プロペラの羽根？

花子　四枚ブレードの局地戦闘機といえば？

月子・雪子　雷電！

花子　全幅十、八メートル。全長九、六九五メートル。

雪子　ずんぐりむっくりさん。

月子　千八百馬力。最高速度毎時約六百キロ。六千メートル上昇まで五分三十秒。

看護婦　先生……。

医師　ついていけん。

花子　二十ミリ機銃四丁装備。

雪子　連合国のコードネームは？

三人　ジャック！

三人、〝エンジン〟をかける。両手を広げ、離陸態勢。轟音とともに離陸。診察室を飛び回る（走り回る）。

看護婦　やめなさいって。また熱が出ちゃうわよ！

構わず三人が飛び回ってるうちに、暗転。

6

病院の屋上。夜。空には満月。屋上は高さ二メートルもの壁で囲まれている。

雪子、月子、花子。ベッドからそっと抜け出してきたようだ。ミスター×が天体望遠鏡のセッティングをしている。

花子　月は朧に白魚の篝も霞む春の空。

雪子　お月見お月見。花ちゃん、眠くない？

花子　大丈夫だがね。

月子　それにしても、このフェンスは何とかならんのか。外の景色が全然だ。

花子　柵を乗り越えて飛び降り自殺する患者がいたためぞなもし。

月子　そんなら閉鎖しちゃえばいい。
花子　日光浴をする場所がなかとです。
雪子　今夜は月光浴。月ちゃん、オオカミに変身。うおーん。
花子　今ではこの壁に向かって快癒を祈る患者も大勢おるとか全然おらんとか。
月子　嘆きの壁だな。
ミスターX（三人を呼んで）おーい。
花子　おっ、調節できたか。

三人、天体望遠鏡のそばへ。

ミスターX　のぞいてみろ。
花子　月ちゃん、お先にどうぞ。
月子　では名前に免じて……どれどれ。

月子、のぞく。

月子　おお、月面だ……汚いなあ。吹き出物だらけだ。皮膚科へいって副腎ホルモン塗ってもらわなきゃ。
雪子　アポロの残した星条旗は見える？
月子　見える見える。たなびいてる。
花子　嘘嘘。月面で風が吹くか。
ミスターX　あれってこっち側か？　裏側じゃないの？
雪子　人類にとっては大きな一歩、二歩。三歩進んで二歩下がる。
月子　アームストロング船長が月面でUFOに出会い、宇宙人にヤンキースの帽子をプレゼントしたという噂がある。
花子　ヒューストンアストロズのならわかるが。
月子　はい交替。美人も月も遠目がいい。
ミスターX　ナマ言ってやがる。
雪子　雪子、見る見る。

雪子、のぞく。「穴ぼこ、穴ぼこ」などいってはしゃぐ。

花子　バツはレントゲンで骨を見るだけでなく、月や星まで見るんだ。

月子　人体から天体まで、のぞきのオールラウンドプレイヤーだ。

ミスターX　人を変態扱いするな。

月子（月を眺めながら）……ウサギ。

花子　え？

月子　ウサギには見えないなあ。

花子　帽子の中にウサギはいなかった？

月子　いなかった。鳩もいなかったし。

花子　仕込んでなかったのかなあ。

ミスターX　あれはカニだっていう国もあるらしいぞ。

月子　じゃあ、あれは床屋のハサミだな。

花子　もりぶでーん（笑）。

雪子（望遠鏡をのぞきながら）ただいま、UFOが続々月面に着陸しております。

花子　雪ちゃんたら、お馬鹿。

月子　……ここってさ。

花子　何？

月子　ここって帽子の中と同じだ。

花子　……。

月子　病院は……この病院はでっかい帽子なんだ。月子たちはここに吸い込まれたきり、もう外へは出ていけない……それとも誰かの夢の中？　月子たちは誰かの夢の中に囚われているのかなあ。

花子　……。

月子　トントントン、ツーツーツー、トントントン。いくらSOSを送っても、誰も答えてくれない……トントントン、ツーツーツー、トントントン。

花子　月ちゃん。

月子　神様の夢の中だったりして……。

ミスターX　よくなるって……おまえら絶対よくなるよ。三人ともいい骨盤してるもの。放射線一筋十年の俺がうけあってやる。

月子　それって骨占いか（笑）。

ミスターX　昔の中国では亀の甲羅を使って占ったそうだ。

花子（つぶやく）バツめ、花子の骨盤も収集しておったのか。
月子　……ベイビー、生める？
ミスターX　うん？
月子　月子の骨盤は、ベイビーがちゃんと生める骨盤？
ミスターX　ああ、生めるさ。ここが、女の場合、こう丸くなっててな。（宙に描く）ここんとこを赤ちゃんの頭が通るわけだが、おまえたちのはここが広くなっててて、だからすーっと通る。安産だ。
花子　案ずるより産むがやすし。
月子　スターってさ。
花子　うん？
月子　ドクターの奥さんの赤ちゃんのことかも。お星様になった赤ちゃん。
花子　……花子は生むなら双子がいいな。双子の赤ちゃんを両脇に抱えて、商店街を突っ走る肝っ玉母ちゃんになる。
ミスターX　何で両脇に抱えるんだ？
月子　双発機だよね、花ちゃん。
花子　そうそう、こんな感じ（抱え込むしぐさ）。大馬力のエンジンがふたーつ。
月子　母ちゃんの言うこと聞かなそう（笑）。
雪子（望遠鏡をのぞきながら）敵機発見！
月子　何だ、B29か？
雪子　間違いました。友軍機です。
花子　UFOじゃないの？
雪子　双発機です。
花子　雪ちゃんたら、話あわせて。
ミスターX　……おい、何か聞こえないか？

耳をそばだてる。聞こえてくるプロペラの回転音。

月子　プロペラだ。
花子　飛行機のだ、それもでっかい。
雪子　来ました！

見ると頭上に日の丸つけた双発機。

太平洋戦争時の戦闘機である。

月子　……月光だ！

ミスターX　冗談だろ。

花子　夜間戦闘機、月光。全幅十七メートル、全長十二、一三メートル。千百三十馬力、最大速度毎時五百キロ。

雪子　斜め銃備えた憎いやつ。

花子　何で月光が病院の屋上にやってくるんだ。めちゃんこうれしいけど。

月子　……迎えに来たんだ。フェンスの向こうから。夢の外から。

花子　月ちゃん……。

ミスターX　かぐや姫か？

雪子　ミスサイゴン？

ミスターX　……誰だ、ありゃ！

ミスター×の指し示す方向に人影。

月子　飛行機乗り？

雪子　春日野先生？

花子　……ドクターの奥さんだ！

そこにいるのは女（医師の妻）。
飛行帽をかぶり、白いマフラーなびかせた大戦中の操縦士姿。

雪子　月ちゃん、これって……。

月子　『翼の決戦』だ！

女、堂々とした立ち姿。まさにスターの貫録。三人に微笑む。
口元が「ごきげんよう」と動く。
プロペラ音、大きくなる。
『すみれの花咲く頃』（宝塚の合唱のレコード）が重なる。
双発機が近づく。
よく見ると二つのエンジンについているプロペラのブレード（羽根）は巨大な床屋のハサミ。

雪子、月子、花子、直立。女に向かって一斉に敬礼（海軍式、肘を締めて縦に）。
女、敬礼を返す。
レコードの歌声、プロペラ音、さらに大きくなって。

了

参考「零戦の秘術」（加藤寛一郎著　講談社）
「タカラジェンヌの太平洋戦争」（玉岡かおる著　新潮選書）